ヨリ不服ハ唱ヘスシテ受ルト雖モ前ニモ説明セシ如ク直ニ受理
律ニ問フヿ之レ尤不當ナラン
右八个條ニ説明スル所ニ因リ其性質ヲ考究スルニ被告和藏ニ於テ
ハ第二條中ニ可成願下ノ義取計可申ニモセヨノ語ニヨリ第三條中
ノ告訴狀麁漏ノ廉アリテ取下ケシヲ以テ最早願下相成リタルト誤
認シテ第四條中ノ謝禮金三拾錢外二品ヲ持參スルノ意ヲ生シタル
者ト推測セサルヲ得ス然レトモ自分ニ於テハ第二條中ニ掲ケシ如ク
可成願下ニ致スヘクト欺キテ謝禮ヲ貪ルノ念ハ絶テ無之故ニ縱ヒ
家族ニ於テ受ケ居ルヿヲ知リ得ハ速カニ差返シ其差返シタル段ヲ
其筋ヘモ達スヘキナレトモ豈計ランヤ第四條中ニ掲載セシ如ク自分
ニ於テ毫モ其事實ヲ知ラサレハコソ警察官ノ尋問ニヨリ初テ驚愕
セシ位ナリ然ルニ該品物ヲ受ケ費消セシハ家族ノ失錯トハ申シナ

カラ家族ノ失錯ハ即チ戸主タル自分ノ不注意ヨリ生シタル次第ニ
付其不注意ニ付テノ刑ハ固ヨリ受クルト雖モ之ニ反シテ該裁判ノ
如キ其情ヲ知テ其謝禮ヲ受ル者ト同一ニ處セシ次第ニシテ右等ノ
如キ不當ナル裁判ヲ受ルノ理由ハ曾テ之ナシ因テ該裁判ニ服セス
シテ右判決ノ破毀ヲ奉仰候條何分至當ノ御覆審被成下度此段上告
仕候也

大審院ニ於テ裁判スルヿ左ノ如シ

上告ノ主點

磯邊和藏ヨリ金三拾錢並甘藷外一品ヲ受ケタルハ自分他出中家族
共ノ受ケタルモノニテ佐伯警察署ニ於テ尋問ヲ受ル迄承知セサル
事柄ナルヲ情ヲ知テ受クル者ト同ク不枉法ニ準シテ論シ禁獄五十
日ニ處セラレタルハ不服ナリトノヿ

辨明

高妻善道カ佐伯區裁判所ノ裁判ハ不服ナリト申立ルト雖モ前ニ掲クル明治十三年五月二十六日佐伯警察署ヘ善道カ記名調印シテ差出シタル手續書中私ノ留守中又々拙宅ヘ參リ伐木ノ事件事濟相成タル禮トシテ金三拾錢ト甘薯八貫目イリコ三升持參候ヲ私留守中トハ乍申家族共受納シ既ニ甘薯イリコハ其半ヲ費消シ金ハ開封致シタル儘有之候ニ付私甚不宜義トハ存候得共最早品物ノ半ヲ食シ且開封等致シアル旁以テ致シ方無之因テ爾來不得止悉皆消費致シ候得共金ノ儀ハ封紙ト共ニ存在云々ト供出シ加之佐伯區裁判所ニ於テモ警察署ヘ差出シタル手續書ノ通相違ナキ旨明言セリ右ニ據テ見レハ善道カ和藏ヨリ送リタル金品ハ不正タルコヲ知覺シナカラ取受シタルヿ明白ナリ左スレハ善道カ罪ハ受賍律官吏受財條不

枉法ニ準シテ論シ賍金壹圓以下懲役五十日ノ處士族タルヲ以テ閏刑ニ換ヘ禁獄五十日ニ處斷シ而シテ受クル所ノ金圓及ヒ估計金三拾貳錢共追徵シテ官沒スヘキモノナリトス然ルニ善道ニ於テ前供ニ反シ數ケ條ヲ以テ不服ヲ唱フルモ其前供ヲ取消スヘキ効力ヲ有スル証憑ナキヲ以テ該上告ハ相立タス故ニ其數ケ條ニ對シ一々辨明ヲ與ヘス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年六月九日熊本裁判所管內佐伯區裁判所ニ於テ高妻善道ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スルモノ也

第四百四十八號

○判文賭博ノ件　明治十三年七月十七日上告
明治十三年八月二十日判決

愛知縣三河國碧海郡米津村平民　青山角右衛門　明治十三年七月四十年七ヶ月

愛知縣三河國碧海郡大濱村平民　杉本長助　明治十三年七月四十四年五ヶ月

愛知縣三河國碧海郡大濱村平民　杉本吉三郎　明治十三年七月四十四年五ヶ月

右四名カ明治十三年七月十三日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ審問ヲ受ケ陳述シタル口供左ノ如シ

愛知縣三河國碧海郡大濱村平民　杉浦金三郎　明治十三年七月三十七年三ヶ月

明治八年十二月九日賭博ノ科ニ依リ愛知縣ニ於テ懲役八十日ニ處セラル　青山角右衛門

自分儀明治十三年六月十八日同郡大濱村禰宜田喜作宅於テ骰子ヲ弄シ金ヲ賭ケ博奕致シ申候

正條賭博中裏口ノ方ヨリ巡査踏込マレタリト聞キ一同騒然タルヲ

以テ自分モ直チニ臺ノ口ヨリ表ヘ逃ケ去リ申候
夫レヨリ野瀬村ニ潜匿明治十三年六月二十三日自首致シ申候
右ハ既ニ現場ヘ踏込レ殊ニ其場ニ在テ黨類モ御召捕ヒ相成タルヿ
ナレハ到底隱レ遂クルヿ能ハサルト忍附自首致シタルヿニ有之候

杉本長助
杉本吉三郎
杉浦金三郎

自分共是レ迄刑事御處分ヲ受ケタルヿ無之候
明治十三年六月十八日居村禰宜田喜作宅於テ金ヲ賭ケ骰子ヲ弄シ
博奕致シ申候
右賭博中表ノ方ヨリ巡査踏込レタルニ驚キ一同騷然自分共ハ直チ
ニ臺ノ口ヨリ逃ケ去リ申候

長助儀ハ同郡一色村ヘ逃ケ行キ魚業相働キ居候處黨類ノ者モ現場
ニテ召捕ヒラレタルノミナラス既ニ巡査踏込マレタルヿナレハ迚
モ隱レ遂クルヿ出來難クト存シ歸村ノ上親類ト談示明治十三年六
月二十三日自首致シ申候
吉三郎儀ハ同村禰宜田源助方ニ一泊翌十九日歸宅致シ候處巡査尋
チニ來ラレタリ早ク沖ヘ漁業ニ行クヘシト親ノ申スニ任セ漁業ニ
出申候
然ル處他ノ漁夫等既ニ黨類ノ者召捕ヒラレタルノミナラス現場ニ
テ巡査ニ撞見セラレタル上ハ早ク自首スヘシトノ忠告ヲ受ケ明治
十三年六月二十三日首出致シタルヿニ有之候
金三郎儀ハ所々ノ親戚ニ一泊ツヽ致シ遂ニ岡崎太田長吉宅ヘ一夜
潜匿ノ際賭博ノ始末相嗚候處夫レハ早ク自首スヘシト申スニ付明

治十三年六月二十九日自首致シ申候

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月十三日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ

左ノ裁判ヲ申渡シタリ　青山角右衛門

其方儀明治十三年六月十八日禰宜田喜作宅於テ金ヲ賭ケ博奕スル

科賭博律ニ依リ再犯タルヲ以テ一等ヲ加ヘ杖九十二等ヲ酌減シ杖

七十申付候事　杉本長吉

杉本吉三郎

杉浦金三郎

其方共儀明治十三年六月十八日禰宜田喜作宅於テ金ヲ賭ケ博戲ス

ル科賭博律ニ依リ杖八十三等ヲ酌減シ各笞五十申付候事

愛知縣十等警部平野兼三郎ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七

月十七日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事ヨ

リ本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ　青山角右衛門

杉本長吉

杉本吉三郎

杉浦金三郎

右之者共明治十三年六月十八日禰宜田喜作宅ニ於テ賭博ヲ爲シ官

之ヲ拿捕セントスル際賭場ヲ逃走シ後追捕ノ免レ難キヲ覺リ首出

スルヲ以テ聞捕自首ニ擬シ本刑ニ一等ヲ減セラルヘキ者ト見込名

古屋裁判所岡崎支廳ヘ及公訴候處同廳於テハ之レニ輕減ヲ與ヘス

全刑ヲ宣告シタル裁判不法ト思量ス如何トナレハ罪ヲ犯シ自首ス

ル者ハ其罪ヲ全免或ハ輕減スルハ律ニ正條ノアルアリ然ラハ賭博モ亦犯罪ナリ其罪ヲ犯シ犯所ニ於テ現獲ヲ逃レ後ヲ追捕ヲ覺リテ首出スレハ則例第五十九條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減セラルヘキモノナラン歟是ニ因テ上告ヲ爲シ原裁判破毀ヲ求ムル所以ナリ

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

青山角右衛門外三名カ明治十三年六月十八日禰宜田喜作宅ニ於テ賭博セシ際巡査ニ撞見セラレタルヲ以テ其場ヲ逃走シ追テ自首セシハ角右衛門外三名カ口供ニ依レハ到底拿捕ノ免レ難キヲ知リテ首白セシ者ト謂ハサルヲ得ス左スレハ改定律例第五十九條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減ス可キ者トス然ルヲ名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テハ改定律例第五十九條ニ依テ減等セサリシハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年七月十三日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ青山角右衛門外三名ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

青山角右衛門

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日再犯ナルヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役九十日ノ處改定律例第五十九條ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ

懲役八十日

杉本長吉

杉本吉三郎

杉浦金三郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ雜犯律賭博條ニ照シ懲役八十日ノ處改定律例第五十九條ニ依リ本罪ニ一等ヲ減シ

懲役七十日

第四百四十九號

○判文（無届旅行ノ件）明治十三年七月十日上告
明治十三年八月廿一日判決

愛知縣尾張國海西郡市
江村百七十番屋敷平民
農加藤紋三郎長男
加藤榮次郎
安政二年卯十月生

右榮次郎カ明治十三年六月二十八日名古屋裁判所ニ差出シタル始末書左ノ如シ

自分儀明治十二年八月朋友ノ誘引ニ依リ不圖無届ニシテ太神宮ヘ參詣仕夫ヨリ紀伊國奈知山並高野山ヘ參詣致シ夫ヨリ同國熊野ヘ

至リ旅用遣果シ候處伊勢地オイテ道連相成候某成者申聞候ニハ自分世話致可遣候間漁業致シ候半哉ト申聞呉候付困究ノ折柄ニ付同人世話ニテ同所於テ漁業罷在本年三月七日歸宅仕候處永々音信モ不致歸宅モ不仕候付父紋三郎於テ家出ノ御届仕置候旨申聞候間驚入直ニ右趣前ケ須御分署ヘ自首仕且歸宅ノ上境所戸長ヘ届置申候右ハ全ク最前無何心無届ニシテ出宅仕御規則ニ相觸レ候段何共申譯無御座奉恐入候右ハ本日御呼出ノ上御尋問ニ付此段始末書ヲ以奉申上候

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十一年八月中地方廳ノ條規ニ違ヒ無斷旅行スル科明治十年第十三號公布ニ依リ處斷スヘキ處追テ自首スルヲ以テ免罪候

事

愛知縣九等警部佐藤森久ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ明治十三年八月五日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑モ該犯ハ明治十二年八月中無屆旅行シタル末同十三年六月十日復歸自首スルモノニ付明治四年四月公布戸籍法則第十四則及ヒ同年七月二十二日寄留幷旅行スル者屆方云々公布但書等ニ違犯シタルモノナルヲ以テ律例第二百八十八條ニ照シ違式輕ニ問ヒ笞一十贖ヲ聽スヘキノ處退悔自首スルヲ以テ仍ホ犯罪自首條ニヨリ免罪ノ處斷スヘキモノナリ然ルニ曩ニ當縣ヨリ内務省幷ニ御省等ヘ丙号書類ノ通伺御指令ニ因テ之レヲ觀ルモ無屆旅行者ハ右法則ニ違背シタルモノトシ問罪ス可キヲ名古屋裁判所ニ於テハ地方廳ノ條

規ニ違ヒ無屆旅行スル科明治十年第十三號公布ニ依リ處斷ス可キ處退テ自首スルヲ以テ免罪タルノ宣告セリ然ルニ當縣ニ於テハ無屆旅行成ラサルノ條規トスヘキ布達シタルヿ未タ無之顧フニ丁號ノ通明治十一年當縣甲第八號ヲ以テ諭達シタルヿアリ之レヲ條規ト誤認シ處斷シタルモノナラン果シテ然ルトキハ曩ニ他事件ニテ戊號ノ通リ同衙ヨリ照會アルヲ以テ己號ノ如ク其甲第八號ハ諭達ナル旨回答シアルヲ條規ト看做シ處斷シタルハ不當ノ裁判ト思考ス

辨明

加藤榮次郎カ明治十二年八月中無屆ニテ他管下ニ擅出シ明治十三年六月一日愛知縣警察署前ケ須分署ヘ歸村自首致シタルハ明治四年四月四日布告戸籍法第十四則及ヒ同年七月二十二日布告但書ニ依テ科罰スヘキモノニ非ラストス何トナレハ戸籍法第十四則ハ旅

行スル者ハ管廳札ヲ所持スヘキ法ニシテ右ハ七月二十二日ノ布告ヲ以テ取消サレ且該布告ノ但書ニ寄留幷ニ出入届方寄留表取調等都テ規則ノ通可相心得事トアルハ即チ戸籍法第五則ニ編制ハ示後六ケ年目ヲ以テ改ムヘシト雖モ其間ノ出生死去出入等ハ必ス其時々戸長ニ届ケ戸長之ヲ其廳ニ届ケ其廳之ヲ受ケ人員ノ増減等本書ヘ加除シ毎年十一月中戸籍表ヲ改メ十二月中太政官ヘ差出スヘシトアリ右出生死去出入トハ出生死去又ハ婚姻離縁等戸籍上ノ出入増減ヲ云フニテ旅行ノ出立歸家ヲ届出ヘキ義ニハアラストス然而シテ愛知縣佐藤警部ニ於テハ明治十一年同縣第八号達ハ論達ニシテ條規ニ無之ト申立レ也該達文ヲ閲スルニ左ノ如シ

士族平民トモ一時商業又ハ祈願等ニテ他管下ヘ旅行スル者其時々可届出處中ニハ私擅ニ他管下ヘ出ル者有之哉ニ相聞ヘ不都合

ノ次第ニ候條以後右様ノ儀無之様可致候此旨布達候事

右ニ據レハ其文意論達ニアラス即チ布達候事トアリテ其縣ノ條規タルヿ分明ナリトス故ニ名古屋裁判所ニ於テ明治十三年第十三號公布ニ依リ處斷スヘキ處退テ自首スルヲ以テ免罪ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月三日名古屋裁判所ニ於テ加藤榮次郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第四百五十號

○判文（証券印税違犯ノ件）明治十三年五月八日上告
明治十三年八月二十一日判決

島根縣出雲國能義郡田頼村平民

山崎辰右衛門　明治十三年四月
四十八年八月

右辰右衛門カ明治十三年四月廿七日島根縣松江警察署ニ於テ吟味ヲ受ケタル口供左ノ如シ

自分儀過ル明治十二年六月ノ度尼ケ崎源兵衛ヘ金百圓ノ借用證書ノ預リ書差入候際相當印紙貼付スヘクノ處誤テ印紙不貼ノ證書相渡シタル段恐入候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年四月三十日松江裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀金拾錢ノ証券印紙ヲ貼用セサル金高百圓記載ノ証書ヲ尼ケ崎源兵衛ヘ相渡ス科証券印税規則第四則第貳條ニ依リ脫税高貳拾倍ノ過料金貳圓申付ル

島根縣八等警部幸島操藏ハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ司法卿ヲ經由シ明治十三年八月十一日本院檢事ヨリ本院ニ送附シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

證券印税規則ヲ閲スルニ私債ノ証書預リ証文ノ明條ナシ然レトモ同則第一則綱領第一條ニ凡ソ人民財産ノ受授幷交際上相用候證書帳簿等ハ凡テ此規則之通証券ヲ用ユヘシトアルヲ以テ見ルトキハ規則限外ノ証文ナリトシ不問ニ措クヘキモノニアラサルヤ必セリ抑該証文ノ性質タル原証私債ノ金高ニ干セス只証文ヲ預ルノ主義ニ外ナラスシテ同則第二則第一類中ニアル公債證書讓與ノ證書ト推衡相等シキモノナリトス已ニ本犯山崎辰右衛門カ犯則ノ如キ負債主田中重郎右衛門ヨリ債主尼ケ崎源兵衛ヘ差入ヘキ借用金百圓ノ證書ヲ辰右衛門カ取扱ヒタル所由ヲ以テ一時辰右衛門ノ名當ニシテ

之ヲ預リ而シテ源兵衛其證文ノ預リ証ヲ差入タルモノナレハ則前陳公債証書ノ預リ証ニ比擬シ同則第二則第一類ノ印紙ヲ貼用スヘキ證文ナリトス然ルヲ辰右衛門之レヲ怠リシヨリ源兵衛原証ノ取戻ヲ裁判所ヘ訴フルニ方リ原証百圓ニ相當スル印紙ヲ自貼セシハ源兵衛ノ過誤ニ出辰右衛門カ脫税ノ責メハ壹錢ニ止ルヲ以テ其廿倍ノ過料金ニ處斷スヘキモノト思量セリ然ルニ松江裁判所ニ於テ源兵衛カ過失ニシテ自貼セシ過剩ノ税額ヲ以テ辰右衛門ヲ科スルニ拾錢ノ脫税其貳拾倍ヲ以テセシハ失當ノ處斷ト云ハサルヲ得ス故ニ上告シテ破毀ヲ求ムル所以也

大審院ニ於テ裁判スルヿ左ノ如シ

辨明

島根縣八等警部幸島操藏ニ於テハ山崎辰右衛門カ尾ケ崎源兵衛宛

ノ預リ金証書ハ第一類ノ証書ナルニ付第二類ヲ以テ過料金貳圓ヲ科シタルハ不當ノ裁判ナル旨上告シタルニ因リ源兵衛カ明治十三年五月四日松江警察署ニ差出シタル上伸書幷ニ預リ金証ヲ取調ルニ左ノ如シ

上伸書

一自分儀過ル明治十一年六月ノ度能義郡田頼村田中重郎右衛門ナルモノヨリ金百貳拾五圓ヲ可請取ノ處正金廿五圓ヲ請取殘額百圓ハ辰右衛門ト示談ノ上同人名宛貸金（原ノマヽ）証ヲ以テ受領イタシ然ル處該証左ハ印紙未貼ニ付取扱人右辰右衛門ヨリ印紙貼用致呉ヘキ云々申出ルニ付任其意右百圓ノ証左ハ同人ヨリ他ニ金額取引ニ干セス更ニ預リ証ヲ受領スルモ又々印紙犯則ニ由リ自貼ヲ以テ本年四月一日証書取返シノ義松江裁判所民事課ヘ出訴

仕候

預り申金ノ証

一金百圓也　但田中重郎右衛門殿借用証一札

右ノ通私ヘ正ニ預り置申候處實正也然ル上ハ印紙貼用取揃其上貴君ヘ速ニ御渡可申候爲後日預り書証如件

第七十三區田頼村

山崎辰右衛門印

明治十一年寅六月四日

尼ケ崎源兵衛殿

右ノ書面ニ據テ前顯辰右衛門カ預リ金証書ノ性質ヲ審理スルニ根元借主重郎右衛門ニ於テ債主源兵衛ヨリ金百貳拾五圓ヲ借用シ借主重郎右衛門カ辰右衛門ヲ以テ該金百貳拾五圓ノ内貳拾五圓ヲ債主源兵衛ニ返濟シタルニ付右金百貳拾五圓ノ借用証書ハ辰右衛門

ニ於テ債主源兵衛ヨリ取リ戻シ之ヲ預リタルニ付返償未濟ノ分金百圓ノ借用証ハ更ニ借主重郎右衛門ヲシテ債主源兵衛ニ差入レシムヘキ筈ナルニ付前顯金百貳拾五圓ノ証書ト殘金百圓ハ辰右衛門カ直ニ源兵衛ニ對シ假リニ預リ金ノ義務ヲ負ヒタル契約ヲ爲スモノヽ如シ果シテ然ラハ實際辰右衛門カ源兵衛ヨリ現金百圓ヲ預リ之ヲ使用シタルモノニ非サルハ明瞭ナリ之ニ由テ觀レハ辰右衛門カ前顯預リ金証書面ニハ使用ヲ爲サヽル明文コレナシト雖モ該預リ金百圓ハ之ヲ辰右衛門ニ於テ預リタル義務ヲ負フ契約証書ニ止リ事實辰右衛門ニ於テ其金使用ス可ラサルモノナリ既ニ辰右衛門カ源兵衛宛名ノ預リ金証書ハ其金使用ヲ爲サヽル預リ金証書タルヿ判然タル上ハ証券印税規則第二則第一類諸証書ノ部ニ「一預リ金証文手形」トアル第一類預リ金証書ノ性質ナルカ故ニ前顯辰右衛門カ預

リ金証書面ニハ使用ヲ爲サヽル明文ナキモ輙ク之ヲ証券印税規則第二則第二類証書ニ属スル預リ金証書ノ文意ナリト解釋スルヿヲ得ス左スレハ辰右衛門ハ第一類ノ預金証書ニ証券印紙ヲ貼用セサル者ト看做シ證券印税規則第四則第二條第一類證書類ニ証券印紙ヲ貼用セサル者ハ脫税高ノ貳拾倍過料タルヘキ事トアルニ依リ脫税壹錢ノ貳拾倍即チ金貳拾錢ヲ科スヘキモノナリトス然ルヲ松江裁判所ニ於テ辰右衛門カ罪ヲ斷スルニ証券印税規則第三則第二條ニ依リ脫税高貳拾倍ノ過料金貳圓申付タルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年四月三十日松江裁判所ニ於テ山崎辰右衛門ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

山崎辰右衛門

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ第一類預リ金証書ニ証券印紙ヲ貼用セサル科証券印税規則第四則第二條ニ依リ

過料金貳拾錢

第四百五十一号

○判文賭博再犯ノ件明治十三年七月十四日上告
明治十三年八月二十一日判決

愛知縣三河國西加茂郡
擧母村平民　松本惣八
明治十三年七月
二十九年六月

右惣八カ明治十三年七月七日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供ノ旨趣左ノ如シ

明治十三年三月八日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ賭博ノ科ニ依

リ三等ヲ酌減シ笞五十ニ處セラル

明治十三年六月十三日ノ夜同村大河内萬吉宅ニ於テ同村近藤十郎始メ自分共五名ニテ金五錢或ハ三錢ツヽ相賭ケ博戲致シタルニ相違無之候事

然ルニ自分ハ數度手合セノ末已ニ立去ラントスルノ際巡査出張相成米吉善太郎ノ兩人現場ニテ捕縛相成自分ハ該場ヲ逃走致シ候事」

其后同郡宮口村ヘ參リ兼テ知ル駒平ト申者方ニ潛匿致居候ヘトモ追々御詮議嚴敷有之ニ付到底犯罪遁レ難クト存シ本月三日自首致シタルニ有之候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月七日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年六月十三日ノ夜同村大河内萬吉宅ニ於テ近藤十

郎外數名ト金錢ヲ賭シ博戲ヲ爲シ追テ自首スト雖モ已ニ共犯捕ニ就クノ際賭場ヲ逃走シタルモノニ付首免ヲ與ヘス依テ右科賭博律ニ依リ再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ杖九十可申付處二等ヲ酌減シ杖七十申付候事

愛知縣九等警部竹内慥爾ニ於テハ右裁判ヲ不當ナリトシ司法卿ヲ經由シ明治十三年八月十九日本院撿事ヨリ送附シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告杉本惣八カ共犯捕ニ就クノ際現場ヲ逃走シ官ノ追捕ヲ知テ到底犯罪ヲ遁レ難キヲ自首スルハ悔懼ノ心尤モ薄キ者ト雖モ官之ヲ追跡逮捕スルノ勞ヲ減省セシムル儀モ有之矧ンヤ賭博ノ犯罪者ニ限リ自ラ出首スルモ減免ヲ與ヘサルノ正條ナキカ故ニ犯罪自首條例第六十九條ニ照擬スヘキ者ト考量ス然ルヲ名古屋裁判所岡崎支

廳ニ於テ自首減免ヲ與ヘサルノ裁判ハ不法ナリト見認ムルヲ以テ上告破毀ヲ求ムル斯ノ如シ

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

杉本惣八カ大河内萬吉宅ニ於テ近藤十郎等數名ト金五錢或ハ三錢ヲ賭ケノ博戯ヲ行ヒタルハ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處再犯ニ係ルヲ以一等ヲ加ヘ懲役九十日ニ處スヘク又惣八カ同類捕縛セラル際其場ヲ逃走シ遲テ自首スルハ改定律例第五十九條凡罪ヲ犯シ官ノ捕獲セント欲スルヲ聞テ自首スル者ハ本罪ニ一等ヲ減スト アルニ擬シ本罪懲役九十日ヨリ一等ヲ減シ懲役八十日ニ處斷スヘキモノナリトス然ルヲ岡崎支廳ニ於テ惣八カ罪ヲ斷スルニ雜犯律賭博條ニ依リタルハ適當ナルモ改定律例第五十九條ニ照シ首免ヲ

與ヘサリシハ不適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以明治十三年七月七日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ杉本惣八ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

杉本惣八

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ博戯ヲ爲ス科雜犯律賭博條ニ依リ再犯ニ係ルヲ以一等ヲ加ヘ懲役九十日ノ處自首スルヲ以改定律例第五十九條ニ照シ本罪ニ一等ヲ減シ懲役八十日

第四百五十二號

○判文（窃盗三犯ノ件）明治十三年六月十八日上告
明治十三年八月二十三日判決

山形縣羽前國西多川郡

鶴岡榮町三十五番地士族　鈴木德寶　明治十三年六月三十年

右德寶カ明治十三年六月三日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

一自分儀明治十二年二月中商用ニテ出京ノ末愛宕下町四丁目八番地旅人宿久田「テル」方ヘ同年五月一日ヨリ止宿同年六月六日朝飯後同家立出淺草材木町武田屋ト申旅人宿下田宗右衛門方ヘ此際宇都宮出生ノ由ニテ鈴木市太郎モ同宿セリ止宿シ翌七日芝邊ヘ用向有之立越宇田川町氏名不知湯屋ニテ入浴シ日暮前頃同家立出ントセシニ兼テ知ル人行德出生ノ由ニテ方今住所不知其頃愛宕下警視病院ノ小使ニ雇ハレ居タ

ル加藤德藏ナル者風呂敷包ヲ持來リ何レヘカ質入致呉候樣依頼ニ付同人ハ湯屋ノ二階ニ待セ置芝新堀町三十一番地竹木元厚ヘ依頼同人ノ添書ヲ得芝松本町十七番地森井春吉方ヘ銘仙藍格子縞男胴着壹枚金五拾錢ニ質入致シ右金ハ德藏ヘ相渡シ其後武田屋ヘハ二三泊ニテ用向ノ都合ニ依リ處々ノ旅籠屋ヘ止宿中同年六月十日前書ノ湯屋ヘ入浴日暮前立歸ラントスルニ加藤德藏來リ尚又質入致呉候樣依頼ニ付前書ノ手續ニテ森井春吉方ヘ六七ノ蚊帳外四品ヲ金五圓五錢ニ質入致シ右金ハ同人ヘ相渡シ示後同月下旬山形ヘ立越同年九月中旬尚又出京ノ末同月卅日ヨリ品川町旅人宿小石川彌兵衛方ヘ止宿活版社ヘ雇ハルヘクト存シ處々聞繕候際同月六日夜前書ノ鈴木市太郎方今住所不知其際紀尾井町十五番地居住ノ由承知セリヘ京橋邊ノ金澤ト申寄席ニテ出遇ヒ候處革文庫外九品質入致シ呉候樣依頼ニ付芝口一

丁目七番地内藤茂七方へ金廿五錢ニ質入致シ寄席へ立戻リ右ハ
同人ヘ相渡シ尚又同月八日夜前書ノ寄席ニ於テ市太郎ヘ出遇候處
紺白竪縞男單物外五品賣却致吳候樣依賴ニ付内藤茂七方へ金壹圓
四拾五錢ニ賣却シ右金ハ前同樣市太郎ヘ相渡シ翌九日夜木挽町番
地幷氏名不知寄席ニ於テ尚市太郎ニ出遇候處木綿黃八丈ノ小假卷
ヲ質入致吳候樣依賴ニ付是又内藤茂七方へ金三拾七錢五厘ニ質入
致シ右金ハ前同樣市太郎ヘ相渡シタル處同月十日警視分署ヨリ拘
引相成候事

一久田「テル」竹本源厚内藤茂七ノ三名ヨリ自分ヲ鈴木兵吉ト中立候
ハ「テル」方止宿ノ際同縣人村田定治押切盛道ト同宿ニ有之處同家ノ
宿帳ヘ右兩人ノ中ニテ誤テ自分ノ幼名ヲ記載シ又同縣人辻傳藏ノ
周旋ニテ元厚方へ團扇製造ノ傳習ニ參リ又同縣人中村信量ノ周旋

ニテ當初茂七方へ質入致タル儀ニ有之一体同縣人ヨリハ多ク幼名
ヲ以テ唱呼候故同人共ヨリ右樣申聞タルヿト相考自分故サラニ幼
名ヲ唱ヘタル次第ニハ無之候事

明治十三年六月七日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀山形縣士族鈴木德寶ナル者ニテ竹本元厚ヘ依賴シ森井春吉
ヘ典賣シタル物品ハ當時愛岩下警視病院ノ小使ニ雇ハレ居タル行
德出生方今住所不知加藤德藏ノ依賴ヲ受ケ又内藤茂七ヘ典賣シタ
ル物品ハ當時紀尾井町十五番地ニ居所セル宇都宮出生方今住所不
知鈴木市太郎ノ依賴ヲ受ケタル旨申供スト雖モ第一弭間保直母「キ
ヨヘ」外二名ニ於テハ示サレタル撮影ハ其面貌弭間保廣ニ相違ナキ
旨陳述シ第二山形縣警察署ヨリノ回答書ニ據レハ竊盜再犯ノ處刑
ヲ受タル者ナリ第三事出久田「テル」外二名ノ陳述第四東京警視本署

警察官ノ証言ニ據レハ加藤德藏外一名ハ所在分明ナラサルノミナラス典賣等ノ物品ト盜難ニ罹リタル物品ト符合シ他ニ己カ所爲ニアラサルヲ証明スル能ハサルヲ以テ其事實ヲ推測スルニ山形縣羽前國東田川郡砂川村士族弭間保直附籍平民弭間保廣ニテ氏名ヲ詐稱シ客塵ニ投宿シ加之久田「テル」外三名ノ物品ヲ窃取シタル者ト認定ス因テ賍金拾三圓三拾九錢有科ノ内窃盜條ニ依リ三犯賍金五拾圓以下ナルヲ以テ懲役十年申付ル

鈴木德寶ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月十八日大審院ニ上告ノ要領左ノ如シ

自分儀明治十二年三月中國元出立致同年四月中當地ヘ着同七月中旬再ヒ歸國致同九月中再三出京馬喰町二丁目番地不明ナル山城屋某方ニ止宿致九月三十日日本橋區品川町十二番地小石川彌兵衛方

ニ又々止宿罷在候内宇都宮出生ニテ當時麹町區紀尾井町十五番地居住鈴木市太郎ナル者ト別懇致候然ル處同人ヨリ衣類幷蝙蝠傘等數品賣却方周旋被相頼候ニ付芝區芝口一丁目七番地内藤茂七方ヘ金壹圓貳拾錢程ニ賣却致遣候然ル處該品ノ義ハ不正品ノ趣ニ付第二方面第一分署ヘ昨十一年十月十日御拘置相成夫ヨリ當三課ヘ御送致ノ後御調ヲ受候其際昨六月中芝區愛宕下町警視病院ニ小使相勤居候加藤德藏ナル者ト別懇致居候折衣類幷蚊帳典賣ノ義周旋被相頼候ニ付芝區芝新堀町番地不明兼テ知己ノ竹本元厚ヘ依頼シ典賣シ遣シタル物品等モ不正品ノ趣被仰聞奉恐入候其際自分本籍御調ニ相成候末弭間保廣ニテハ非サルヤノ旨御尋有之候ニ付素ヨリ鈴木德寶ニシテ詐稱等ハ決シテ致サヽル趣申立候然ル處該課ニ於テ自分面貌被寫取候撮影ヲ以テ山形縣ヘ御照會ノ處弭間「キヨ」外二

名ノ者ヨリ保廣ニ相違無之旨陳述候ヲ以テ同人ナリト認定被致候ハ毫モ存セサル事ニテ全ク御係リ法官ノ御推測ト奉存候間何卒弭間「キヨ」幷外二名証言致候者共御呼出ノ上對審被仰付被下候ハヽ眞偽判然可致ト乍恐奉存候尤該宣告書中ノ件々ハ弭間保廣ナル者ノ所業ト奉推察候自分ニ於テ現ニ爲シタル事件ハ前陳ノ通リ二ケ條ニシテ初犯ニ相違無御座候然ルヲ三犯賍金五拾圓以下ナルヲ以テ懲役十年ノ御所刑相蒙リ候由ハレ無御坐候斯ル他人ノ爲シタル犯罪ヲ寃擬セラレ自分ニ於テ默々トシテ甘受スルノ理由無御坐因テ上告仕候趣意ニ御坐候仰キ冀クハ東京裁判ヲ破毀セラレ更ニ公明正大ノ御審判被成下度此段奉願候以上

明治十三年六月廿六日德實ハ重テ左ノ明細書ヲ差出シタリ

第一條

宣告書ニ弭間保廣母「キヨ」外二名ニ於テ示サレタル撮影ハ其面貌弭間保廣ニ相違ナキ旨陳述シトノ之レアリ候得共自分ニ於テハ嘗テ保直母「キヨ」ナル者ノ未タ面貌ヲ知ラス況乎言語ヲ交ヘタル事ナシ彼等共何等ノ人違ヒニテ自分義ヲ保廣ナリト認メタルヤ自分ニ於テハ元來酒井ノ家臣ニシテ鈴木兵吉ト申居候處明治六年ト覺候一人ニシテ實俗ノ兩名ヲ用ユル事ヲ廢セラレ候ニ因テ德實ト改名仕候ノミ其他氏名ヲ詐稱シ客廛ニ投宿シタル義決シテ無之第一不服ノ要点ナリ

第二條

宣告書ハ山形縣警察署ヨリ廻答書ニ據レハ窃盗再犯ノ處刑ヲ經タル者ト之レアリ候得共自分義ハ何レニ於テモ處刑ヲ受ケ又ハ氏名ヲ詐稱シ且又一日モ拘留致サレタル義毫モ無御坐明白タル身ヲ一

ノ撮影ヲ以テ面貌相違ナキト婦女子ノ陳述ヲ以テ無罪ノ者ヲ再犯ナリト御廻答相成タルハ抑モ何等ノ源因ヨリ如斯ノ誤リハ人民保護警察官ノ御處置トモ覺不申自分ニ於テ了解難仕依テハ自分義ヲ山形縣警察署ヘ御差廻シ被下候ハヽ保直母「キヨ」外二名ノ者ト對審眞僞明瞭可仕是第二不服ノ要点ナリ

第三條

宣告書ニ久田「テル」外三名ノ物品ヲ窃取シタル者ト認定スト之アリ候得共素ヨリ自分ニ於テ右等ノ所業致シタル義之レナク右物品ハ警視分署幷第三課ニ於テ上申仕置候通リ加藤德藏鈴木市太郎兩人ノ者共ヨリ依頼ヲ受ケ典賣致シタルニ該品不正ノ趣分署第三課ニ於テ始テ承知仕候ニ付德藏市太郎共ノ住所ヲ上申仕該犯捕縛相成候得ハ自分不正ノ所業致サヽルハ判然可仕ト相考候該犯共ノ住所

立廻リ先キ自分ヨリ上申致シタルニ方今居住致サヽルヲ以テ自分ノ所業ナリト御認定相成候テハ難澁仕候耳ナラス榮譽ニモ相掛リ候ニ付右兩人共ノ偵捕相成候迄御拘留罷成候ハ致方之レナク如此粗漏ノ御判決ニ相成候ニ付御院ニ向テ破毀ヲ請願スル第三ノ要點ナリ

右條件奉申上候通リ事實相違無之候ニ付何卒格別之御仁恤ヲ以テ御再審被成下度尚ホ補正書ヲ以テ奉歎願候以上

大審院ニ於テ裁判スルヿ左ノ如シ

鈴木德寶カ上告ノ主點

第一　弭間保直母「キヨヘ」外二名ニ而サレタル撮影ハ其面貌弭間保廣ニ相違ナシト陳述スルモ自分ハ鈴木德寶ニシテ決シテ氏名ヲ詐稱シタル義之レナク然ルニ婦女子ノ陳述ヲ以テ無罪ノ者ヲ再

犯ナリト看做サレシハ不服ナリトノ事

第二　加藤德藏鈴木市太郎ノ兩人ヨリ依頼ヲ受ケ典賣シタル物品ナルヲ之ヲ久田〔テル〕外三ケ所ニ於テ自分カ窃取シタル者ト認定セラレタルハ不法ナリトノ事

辨明

第一條

明治十三年一月廿九日弭間〔キヨヘ〕カ山形縣鶴岡警察署ヘ差出シタル証明書ニ(今般自分ノ夫羽前國西田川郡鶴岡寶町居住平民弭間保廣ナル者罪犯有之東京府警視本署ニ於テ御捕獲相成御糺彈ノ際僞名申立タル趣ヲ以テ右保廣ノ寫眞御示シ相成熟視スルニ容躰顔面ニ至ルマテ保廣ノ肖像ニ寸分相違無之候依テ証明書ヲ以テ此段申上候也)トアリ其他齋藤吉藏久保澤尹興モ又同一ノ申立ヲ以テ弭間

保廣ニ相違ナシト証明スルノミナラス鶴岡警察署ノ回答書ニ鶴岡榮町ニハ鈴木德寶ナル者ノ住居更ニ無之トアリ之ニ由テ觀レハ鈴木德寶ハ僞名ニシテ即チ弭間保廣ニ相違ナキハ論ヲ竢タス加之德寶カ當初警視官ノ取調ヲ受ケシ節物品典賣ノ依托人ナリト陳述シタル山田信量カ鶴岡警察署ニ於テ爲シタル口供第二項ニ(前顯兵吉ニ交リシ原因ハ過ル明治十年月日失念鶴岡七日町モトヨシ屋今ハ斷絶シテナシニ於テ始メテ面會致シ夫ヨリ絶テ音信無之處前述ノ通リ當年春再度東京ニテ出會致セシニ由ル尤モ鶴岡ニテ面會セシキハ弭間保廣ト云タリ又當春東京ニテ再會セシキハ鶴岡榮町鈴木年正實弟兵吉ト申者ノ由申述)トアリテ前顯〔キヨヘ〕外二名ノ証明書ヲシテ一層確實ヲ加タリ右等ノ衆証ニ依レハ德寶カ其氏名ヲ詐稱シタル事實ヲシテ判明ナラシムルニ充分ナリトス

第二條

警視本署回答書ニ據ルニ其指示スル加藤德藏ナル者ハ警視第二病院ニハ右氏名ノ者更ニ無之トアリ又鈴木市太郎ノ居住所ナリト指示スル麹町區紀尾井町ニハ右氏名ノ者居住セサルノミナラス該町番地ハ一番地ヨリ九番地迄ニテ十五番地ト云ハ無之トアリテ右兩名ハ全ク所在明瞭ナラサル〔モ〕ノナリ抑モ德寶カ典賣シタル物品ハ久田〔テル〕外三名ノ盜難ニ罹リタル物品ト其品相符合スルヲ以テ其事實ヲ推究スレハ德寶カ自カラ窃取シタルモノト認定セサルヲ得ス何トナレハ德寶カ警視官ノ取調ヲ受ケ爲シタル口供中ニ山田信量ノ依頼ヲ受ケ物品典賣セシ旨陳述シ拇印ノ後ニ至リ右ハ全ク僞リニテ實ハ橋本小太郎久田〔テル〕外二ケ所ニ於テ自分一人ニテ窃取セシ品ニ相違ナシト申立拇印ノ際ニ臨ミ又其供述ヲ翻翼シ該品ハ

加藤德藏鈴木市太郎ノ兩人ヨリ典賣ノ依托ヲ受ケタリト供述セリ其山田信量ノ口供ニハ東京滯在ノ時日ヲ異ニシ又加藤德藏外一名ハ如此虚名ナルニ據レハ仮令拇印ヲ拒ムト雖モ其實ハ自分一人ニテ窃取セシ品ニ相違ナシトノ申立ハ眞實ノ白狀ト云ハサルヲ得サレハナリ因テ東京裁判所ニ於テ弭間保廣ニ相違ナシト認定シ賊盜律窃盜條ニ依リ窃盜三犯五拾圓以下ナルヲ以テ懲役十年ト申渡シタル〔ハ〕相當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年六月七日東京裁判所ニ於テ鈴木德寶ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第四百五十三號

○判文(罪人拒捕ノ件明治十三年六月十四日上告
明治十三年八月二十三日判決

愛知縣三河國渥美郡二
川村百四十六番屋敷平
民　山本庄次
明治十三年六月
四十一年六ヶ月

右庄次カ明治十三年六月八日名古屋裁判所管内豊橋區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

自分儀明治十三年五月二十七日夜酒ヲ呑ミ醉餘同郡二川分署ノ前ヲ通過スル際不圖同署前ニ建立スル硝子燈ニ强ク突キ當リ爲メニ硝子燈ノランプノホヤヲ破損シ及ヒ其時巡査追ヒ來リ自分ヲ分署ヘ連レ行カントスルヲ拒ミ拳ヲ以テ巡査ヲ毆チタル始末ハ當豊橋

警察署ニテ摂印仕口書ノ通リ相違無之候事

一右巡査ヲ毆チタルモ醉中ニテ何レヲ毆チタルカ覺ヘ無之候事

一然レトモ自分分署ヘ行クマシト存シ之レヲ拒ミ毆チタルハ相覺ヘ居申候事

一前條硝子燈ニ突當リタルモ素ヨリ故意アッテ爲シタルニ非ラス醉中不圖突當リ爲メニホヤヲ毀損シタル段恐入候事

一自分是迄犯罪ニ依リ御處刑ヲ受ケシ事無之候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年六月十一日名古屋裁判所管内豊橋區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年五月廿七日夜醉中豊橋警察二川分署前ノ硝子燈ニ誤テ衝突シランプホヤヲ毀損シ巡査ノ追捕ニ際シ捕ヲ拒キ手ヲ以テ之レヲ毆ツ科罪人拒捕律ニ依リ官物ヲ誤毀スル計贓金壹圓以

下笞二十ノ本罪ニ二等ヲ加ヘ笞四十中付候事

但シ誤毀スルホヤ代積リ金拾貳錢五厘ヲ追償セシム

愛知縣豊橋警察署詰警部代理一等巡査荻野錬二郎ニ於テ明治十三年六月十四日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シ大審院檢事ヨリ明治十三年八月七日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

一山本庄次ノ犯罪タルヤ酔中硝子燈ニ衝突シランプホヤヲ毀損シ巡査ノ追捕ヲ拒キ尚ホ手ヲ以テ巡査ヲ毆ツモノナレハ誤テ硝子燈ニ衝突シランプホヤヲ毀損セシハ毀棄器物稼穡律ニ依リ賍ニ計ヘ壹圓以下官物ヲ誤毀スル者笞二十手ヲ以テ巡査ヲ毆打シタルハ未成傷タルヲ以テ鬪毆律初項凡手足ヲ以テ人ヲ毆ヲ傷ヲ成サヽル者ハ笞二十トアルニ依リ巡査タルヲ以テ二等ヲ加ヘ笞四十捕ヲ拒ク罪人拒捕律ニ依リ一ノ重キ本罪笞四十ニ二等ヲ加ヘ杖六十ニ處

斷スヘキ者タリ然ルヲ止タ官物誤毀ノ本罪笞二十ニ拒捕罪ヲ加等シ毆打ノ罪ヲ措テ問ハサルハ拒捕ト鬪毆トヲ混視セシモノヽ如シ凡罪人捕ヲ拒クニ際シ延テ捕吏ヲ毆打創傷スルハ勢ヒ得テ然ラシムル所ニシテ其狀況自ラ相牽連シ分離シ能ハサルモノナリト雖モ其情實ニ於ル捕ニ拒クト毆打スルトハ素ヨリ各別ノ犯罪ニシテ之ヲ處斷スル毆打ヲ以テ拒捕ト混同スルヲ得サルモノト信スル也彼ノ罪人拒捕律ニハ凡罪ヲ犯シ逃走シテ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ云々捕吏ヲ毆ヲ折傷以上ニ至ル者ハ絞殺ス者ハ斬トアリ若シ此法文ヲ皮相視スレハ一ニ捕ヲ拒クニ止マルモ又捕ヲ拒キ手足ヲ以テ捕吏ヲ毆打シ或ハ鎌刀菜刀若クハ棍棒等ヲ以テ毆打創傷セルモ折傷以上ニ至ラサル者ハ單ニ拒捕ノ罪而已ヲ科スルニ止マルモノト速了スル見解ナキ能ハスト雖モ之カ權衡ヲ顧レハ自ラ弱

ヲ得ス豈如此法理アランヤ抑罪人拒捕律捕吏ヲ毆ヲ折傷以上ニ至ル者ハ單一ニ罪ヲ科スルノ法ナリト雖モ折傷以上ニ至ラサル者ハ鬪毆律ト並ヒ科斷シ原犯ノ罪ト現在拒毆ノ罪ト其輕重ヲ比較シ重キモノニ二等ヲ加フヘキモノト信認スルカ故ニ本按ノ如ク重キ拒毆ノ罪ヲ措テ問ハス輕キ原犯ノ罪ニ加等シタルハ則チ不當ノ裁判ト考量シ之ヲ上告スル所以ナリ

辨明

山本庄次カ行歩中酒醉ニ因テ二川分署前ニ建設セル硝子燈ニ突當リ之ヲ破損セシ估計金拾貳錢ノ科ハ戸婚律棄毀器物稼穡條凡人ノ器物ヲ棄毀シ及ヒ樹木稼穡ヲ毀伐スル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス官物ハ一等ヲ加フ若シ官物ヲ遺失シ及ヒ誤毀スル者ハ各三等ヲ減シ並ニ數ヲ驗シテ追償ストアルニ照シ懲役三十日該時査吏ノ來リテ分署ニ拘引セントスルヲ拒ミ毆チシヲ以テ捕亡律罪人拒捕條凡罪ヲ犯シテ逃走シ追捕ヲ拒ク者ハ各本罪上ニ二等ヲ加ヘ云々トアルニ依リ二等ヲ加ヘ懲役五十日ニ處スヘキモノトス巡査ヲ毆打シタルハ追捕ヲ遁ントスルノ意匠ニシテ他ニ故意アルニアラサレハ即チ拒捕條ニ照シ加等スル情狀ナリ鬪毆律ヲ以テ論シ二罪俱發ノ例ニ照シテ科斷可キモノニ非ストス然ルヲ名古屋裁判所管内豊橋區裁判所ニ於テ罪人拒捕律ニ依リ官物ヲ誤毀スル計贓金壹圓以下笞二十ノ本罪ニ二等ヲ加ヘ笞四十ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月十一日名古屋裁判所豊橋區裁判所ニ於テ山本庄次ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル「左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スルカ如クナルニ因リ戸婚律棄毀器物稼穡條及ヒ捕亡律罪人拒捕條ニ照シ

懲役五十日

第四百五十四號

○判文(證書偽造ノ件)明治十二年七月廿四日上告
明治十三年八月廿四日判決

廣島縣備後國三谿郡吉舍村百六十三番屋敷居住平民　山本庄次

青木信助

明治十二年七月
四十六年九ヶ月

右信助ハ明治十二年七月二十二日廣島裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ受タリ

其方儀佐々木房右衛門ノ發意ニ同シ秦角之助ヲ同意爲サシメ角之助カ所持スル福永志勉カ實印ヲ以テ志勉カ借主ノ証書ヲ擬造シ言ヲ巧ニシテ志勉ニ迫リ該証書ヲ改製セシメタル末遂ニ欺取ル賍金貳百拾五圓ノ科服罪セスト雖モ証據アルニヨリ例第三百十八條ニ照シ詐欺取財律ニ依リ從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年申付ル

信助ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年七月廿四日本院ニ差出タル上告狀ノ要領左ノ如シ

明治十年六月日不覺佐々木房右衛門秦角之助秦德太郎罷越福永志勉儀無據金子入用ニ付當明治十年七月中返辨期限ニテ金八百拾圓借用致度旨依賴ノ處差當リ現金之レナク依テ右金高相當ノ牛馬十一頭貸渡シ証書取置タルニ已ニ期限ニ至ルモ返辨致サヽルヨリ三次

裁判所ヘ勸解出願ニ及タリ然處大原作兵衛幷ニ志勉親戚ノ者中裁ニテ金貳百拾圓返金ヲ受ケ殘六百三拾圓ハ二ケ年賦返辨ノ熟議相整ヒ裁判所ヘ勸解願下致タルニ被告於テ遂ニ前儀ヲ變改セシヲ以テ再三次裁判所ヘ勸解出願ノ處右貸借ノ義ハ全ク房右衛門信助中合詐欺ノ術ニ出タル段角之助ヨリ三次警察署ヘ自首セシ趣ニテ房右衛門供々拘引相成屢々訊問ヲ受ルモ素ヨリ尋常貸借ナルヲ以テ其旨申立已ニ申立通リノ口供ニ拇印相濟タリ然ルニ今般廣島裁判所ニ於テ証據ニ依テ懲役七年申付相成タリ右ハ何等ノ証據ナルヤ了解スヘカラス全ク不法ノ裁判ナル旨上告及タリ

上告ノ主點

一証據アルトハ何等ノ証據ナリヤ了解スルヲ得ストノ事

辨明

原裁判所ノ簿記ヲ渉獵スルニ明治十一年十二月廿一日三次警察署ニ於テ爲シタル口供中(摘錄)同月廿二日(明治十年十二月ヲ云フ)ト覺大原作兵衛自分方ヘ罷越申聞ル樣此節山田藤太郎鞍掛佐太郎等志勉ヘ左組シ右事件一錢一合モ返濟スルニ及ハストノ申合致候趣ニ有之此義ニ付テハ數日ノ入賃モ掛リ候ニ付福永碧溪同富三郎ト申合志勉ヘ說諭シテ返濟方取計フヘシ其手數料若干ヲ得サレハ爲シカタシト云ヘルヨリ差出シテモ說諭ヲ賴ムヘシトテ賴ミタリ當夜該手數料トシテ金百圓申受度トニヨリ宜敷賴ムトテ返濟ノ上金百圓可遣トノ定約書房右衛門自分ノ兩人ヨリ作兵衛ヘ差入レタリ然ルニ其定約書中「答辨ノ義依賴スル」トアルヲ以テ觀レハ信助ノ口供ハ自語相違スルモノトス依テ原裁判所カ作兵衛ノ供述ハ該定約書ニ適合スルヲ以テ事証明白ナリトシ本案八百四拾圓ノ証書ハ根元詐欺ノ企ニ

ナレルモノト認定シタルモノナリトス

判決

前條ノ通ナルヲ以テ明治十二年七月二十二日廣島裁判所ニ於テ例第三百十八條ニ照シ詐欺取財律ニ依リ(房右衛門)ノ從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年ノ處刑ヲ宣告シタルハ相當ナルニヨリ上告狀却下スルモノナリ

第四百五十五号

○判文(證書僞造ノ件)明治十二年七月二十四日上告
明治十三年八月二十四日判決

廣島縣備後國三谿郡海田原村六百三十二番次
新一番屋敷居住平民
佐々木房右衛門

右房右衛門ヘ明治十二年七月二十三日廣島裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ中渡シタリ　明治十二年七月三十八年七ヶ月

其方儀青木信助ト謀リ秦角之助ヲ同意爲サシメ角之助カ所持スル福永志勉カ實印ヲ以テ志勉カ借主ノ証書ヲ僞造シ言ヲ巧ミニシテ志勉ニ迫リ該証書ヲ改製セシメタル末遂ニ欺取ル旺金貳百拾五圓又ハ福永熊太郎ヨリ水野岩太郎ヘ宛ル讓リ証書ヲ僞造ス右科ノ内福永志勉ヨリ金員欺取ル廉服罪セスト雖モ証據アルニヨリ例第三百十八條ニ照シ詐欺取財律ニ依リ窃盗ニ準シテ論シ懲役十年申付ル

佐々木房右衛門ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十二年七月二十四日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

明治十年六月日不覺秦角之助秦德太郎自宅ヘ罷越福永志勉儀無據金八百圓入用ニ付借用致度依賴ニ付豫テ懇意ナル青木信助ヘ借入方申込タルニ折節現金無之依テ所持ノ牛馬貸渡ヘク趣ニ付馬九疋牛二疋同明治十年七月中返辨ノ期限ニテ借貸ノ定約取結ヒタル處幸ヒ借主志勉ノ實印所持ノ由ニテ自分ヘ証書認方依賴ニ依リ即刻認メ遣シ借主始メ角之助德太郎調印ヲナシ信助ニ相渡タル處組合ノ加印致シ呉ヘク申ニ付志勉方ヘ罷越シ談合ノ上組合兩人加印爲致右証書貸主信助ヘ相渡貸借取引相濟セタリ然ルニ期限ニ至リ返辨淹滯セシヨリ三次裁判所勸解願出ノ處大原作兵衛並志勉親戚ノ者中裁ニテ今貳百拾圓相渡殘六百三拾圓ハ二ケ年賦ニ返辨ノ熟議相整タルヲ以テ裁判所ヘ勸解願下タルニ遂ニ前儀ヲ變改セシヲ以テ再ヒ勸解出願ノ處前顯借貸ハ全ク詐欺ノ術ニ出タル段角之助ヨリ三

次警察署ヘ自首セシ趣ニテ信助俱々拘引相成屢々訊問受ルモ素ヨリ尋常貸借ニ相違ナキヲ以テ其段申立且申立通ノ口供ニ拇印ヲナシタリ然處今般廣島裁判所ニ於テ証據ニ依テ懲役十年申付ニ相成タリ右ハ何等ノ証據ナルヤ了解スルヲ得ス全ク不法ノ裁判ナリ

上告ノ主点

一証據アルトハ何等ノ証據ナリヤ了解スルヲ得ストノ事

辨明

原裁判所ノ簿記ヲ渉獵スルニ明治十一年十二月廿一日三次警察署ニ於テ房右衛門カ供述書ニ〔摘錄〕明治十年十二月廿四日付ニテ青木信助自分ノ兩人ヨリ大原作兵衛ヘ金百圓可差遣トノ定約書差入レ候原由ハ作兵衛志勉親屬ノ者ニテ何モ承知ノ事ニシテ其作兵衛カ申狀ニハ兼テ自分等ヨリ貸米金今日ニ至リ志勉親屬打寄只ノ一錢

一合モ返辨致サストノ不條理ノ申合有之ニ說諭ヲ加ヘ速ニ返濟可致樣取計可遣其手數料ハ金百圓貰ヒ受度トニヨリ該定約書差入タル云々トアレヒ其定約書中ニ〔答辨ノ義依賴スル〕トノ明文有之此明文ヲ明治十一年十二月廿一日三次警察署ニ於テ作兵衛カ供述書中ニ〔摘錄〕明治十年十二月廿日過ト覺ヘ信助方ヨリ呼ニ參リ罷越候處云々志勉ヲ相手取三次區裁判所ヘ勸解出願中ニ有之處若シ自分引合ノ爲メ出頭候ヒハ志勉ニ於テ借用致シ居ルヿニ答辨致シ呉候ヘハ今百圓差遣ハス旨申聞ルニ付一ノ約定証ヲ受取承諾致シ候右ハ志勉カ信助房右衛門ノ兩人ニ被欺証書ヘ實印ヲ押シ相渡シ居リ憫然ノヿト存シ志勉カ借ラサル証據ヲ取タメ一應兩人ノ申分ニ應シ云々トアル双方ノ口供ヲ勘合シ事情ヲ案斷シタルハ相當ナリト云何トナレハ房右衛門等カ正當ノ貸付金ヲ訟求スルニアタリ其相

對手人ノ親戚タル作兵衛ニ百圓ヲ賄賂セシハ即虛構ノ答辨ヲ依賴セシ証憑顯然タルヲ以テ原裁判所カ本案八百四十圓ノ証書ハ根元詐僞ノ企ニナレルモノト認定セシハ相當ナレハナリ又三次警察署ニ於テ爲シタル口供未項ニ〔摘錄〕前顯米四拾五石ノ事件明治十年七月十二日付ニテ証劵界紙ヘ認メ福永熊太郎ヨリ水野岩太郎ヘ差入レタル讓リ証御取紛ニ相成候處云々御責問ニ相成一言ノ申譯無之前文供述スル處ハ全ク詐言ニテ熊太郎ヨリ岩太郎ヘ差入レ候讓リ証ハ白紙ヘ認メ押印ノ上熊太郎ヨリ受取歸リ印紙貼用無之折柄云々字野千五郎ヘ依賴シ右証劵界紙ヘ認メ貰ヒ熊太郎名下ヘハ同人持合セノ印當今私所持品中ニ有之印顆ヲ明治十年三月頃ヨリ預リ居候ヲ押捺致シ全ク此義ニ付テハ僞印致シ候段相違無之恐入云々ト自首セシヿ顯然タルニアラスヤ

判決

前條ノ通ナルヲ以テ明治十二年七月二十二日廣島裁判所ニ於テ例第三百十八條ニ照シ詐欺取財律ニ依リ窃盜ニ準シテ論シ懲役十年ノ處刑ヲ宣告シタルハ相當ナルニヨリ上告狀却下スルモノナリ

第四百五十六號

○判文[詐欺取財ノ件]明治十三年二月十六日上告
明治十三年八月廿四日判決

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡士族

伊地知季德

明治十二年
三十二年

右季德カ明治十三年一月二十九日鹿兒島裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

自分儀兼テ酒ヲ好ミ候處遂ニ酒ヲ呑ミ人ト喧嘩ヲ致シ親共ヨリ禁酒セラレ明治四年八月頃親戚ノ願ニ依リ大島ヘ遠流セラレ明治六年十一月願ニ依リ歸縣致シ明治七年十一月頃再ヒ親戚ノ願ニ依リ大島ヘ遠流致シ明治九年夏頃願ニ依リ歸縣致ス積ニ候得共病ニ罹リ歸縣相成ラス滯島罷居リ明治十一年ニ至リ大島人民中膝生ト稱スル雇人無謝解放相成候樣縣廳ヘ出願方ノ依頼ヲ雇人共ヨリ受ケ周旋方致シ候處明治九年六月頃不審ノ廉之レアル趣ヲ以テ鹿兒島警視出張所ヘ拘留相成候處程ナク放還申渡サレ候ニ付兼テ雇人共ヨリ依頼ヲ受ケタル解放事件出願方周旋ノ爲メ鹿兒島ヘ滯在明治九年十月大島ヘ罷越シ兼テ大島雇人共ヘ五百圓余ノ金額ヲ貸與致シ置キタル廉ヘ負債人共ヨリ砂糖ヲ以テ返濟致スヘク約定証書拾三通ヲ取置キ右証書ヲ以テ同年十一月鹿兒島ヘ歸リ横山貞邦方ヘ示談

ノ上右証書ヲ以テ爲替ヲ取結ヒシ上横山方ヨリ金六百九拾五圓五拾錢ヲ受取リ右証書ニ當ル砂糖ハ大島ヨリ横山方ヘ受取ルヘク旨横山方ヘ申聞ケ右証書ヲ横山方ヘ相渡シ右金額ノ内百圓ハ有川鄉左衛門方ヘ兼テ借金ノ廉ヘ返濟シ百六七拾圓位ハ大島ヨリ引連レ來リタル者ノ衣類反物代トシテ石燈籠通和田某店ヘ相拂ヒ百四拾圓ハ小田十太郎ヘ貸與致シ置キ右金員ノ内百拾九圓ハ明治十二年五月頃十太郎方ヨリ返金致シ候得共悉皆飲食ニ費消致シ八拾貳圓余ハ自分カパンニ入レ置キ其余ノ金額ハ諸費ニ遣果シ明治十二年一月廿四日夜鹿兒島出帆ノ滊船ニ乘組大島ヘ渡海ノ積リニテ兼テ止宿致タ居ル酒勾一郎方在宿ノ處同夜御拘引相成候後チ八拾貳圓余ノ金員ハ兼テ加入シタル横山貞邦ノ商舍々員立會ノ上社中ヘ引取候段承リ候大島雇人解放出願方入費トシテ雇人一人前金拾壹錢九

厘ト六錢六厘宛兩度ニ取建タル段右ハ大島人兒玉活平ノ取計ニ候哉全ク存シ不申候且横山貞邦方ヘ賣渡シタル証書ハ初メ雇人共ヨリ解放ノ儀願意相達シタ上ハ雇人共一人宛製産ノ砂糖拾斤差出スモ不苦ト申シタルヲ奇貨トシ兒玉活平ト相謀リ白石藤右衛門ニ訟書ヲ相認メサセ該証書差入人名下ニ有合セノ印ヲ捺シタル僞証書ヲ以テ横山貞邦ヲ欺キ金六百九拾五圓五拾錢ヲ掠取シタル段御尋問之レアレ共兼テ商方ニテ得タル所有金ヲ雇人共ヘ貸與致シ候事右横山貞邦方ヨリ受取リタル金高六百九拾五圓五拾錢ニ相成候事

明治十三年二月六日鹿兒島裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ宣告シタリ

其方儀大島雇人共ヘ兼テ所有金ヲ貸與シ返濟方ノ儀ハ砂糖ヲ以テ辨償致サスヘシノ約定致シ証書十三通ヲ取置キ右証書ヲ以テ横山貞邦ト爲替取組金六百九拾五圓五拾錢ヲ受取リタル旨申述スルト

雖モ第一該証書差入人奥實元外十四人ノ者共ニ於テ金借致シタル儀一切之レナク旨供中ニ加之証書名下ノ捺印ハ同人共ノ印形ニ非ラサル事ハ今般彼等共ヨリ徴シタル印影ニテ判然タリ第二當時死亡人兒玉活平口供ニ季德周旋ニ依リ雇人無謝解放願意達セシ上ハ季德ヘ謝禮トシテ雇人共壹人ニ付砂糖十斤宛差出スヘシ約定致シ置キタレ共雇人共ニ於テ季德ヨリ金借致シ返金ノ儀ハ砂糖ヲ以テ辨償致ス約定ハ嘗テ之レナク旨供述ス如斯衆証明白ナルヲ以テ全ク該証書ヲ詐爲シ横山貞邦ヲ欺キ六百九拾五圓五拾錢ヲ詐取シタル者ト認定ス右科賊盜律詐欺取財條ニ依リ窃盜ニ準シテ論シ士族ナルヲ以テ改正閏刑律ニ照シ除族ノ上懲役十年申付ル

季德ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年二月十六日本院ヘ上告ノ要領左ノ如シ

判文ニ之アル証書十三通ハ白石藤右衛門書認タル上代理人共印形明確ナルヲ活平其外總代理人共持參セシ確實ナル証書ニ付横山貞邦ト熟議ノ上社名大島泰舍ト定メ自分モ右金員ニテ米豆品々買下シ下島致度ニ付横山貞邦方ト爲換取組金六百九拾五圓五拾錢受取タル義不審ナルモノニアラサル段上伸致シ置タルニ如此處刑サレタルハ不服ナリ

辨明

本犯ニ於テ元來大島滕生人無謝解放ヲ其筋ヘ出願方周旋ノ依頼ヲ受ケ其事ニ從ヒ失費セシ金額五百圓ノ立替ヲ砂糖ヲ以テ辨償ヲ得ント該証書十三通ヲ領收セシモノニテ而モ此証書ハ不正ノモノニ非ラスト云フトイヘ𪜈原裁判所ノ簿記ヲ檢スルニ上告人カ其代理人トイヘル奥實元外十四人ノ者等ニ於テ季德ヨリ金圓立替貰ヒタ

ル事ナキ旨ノ申立アルノミナラス該証書ノ名下ニ押捺シタシ印影ト各人等ノ實印ト原裁判所ニ於テ對比セシニ一モ相似タルモノナシ且兒玉活平生存中ノ口供ヲ閲スルニ滕生即雇人解放出願方ニ付清二ノ周旋ニ依リ願意達セシ上ハ季德ヘ雇人中ヨリ謝禮トシテ一人ニ付砂糖拾斤ツヽ差遣ス約定致置タレヒ雇人共々季德ヨリ金錢借受返濟ノ義ハ製糖ヲ以テ辨償スルノ約束致シタル義曾テ之ナクトアルヲ以テ觀レハ該十三通ノ証書ハ即不實ノ証書ナル事顯然タルニヨリ鹿兒島裁判所ニ於テ衆証明白ナルヲ以テ全ク該証書ヲ詐爲シ横山貞邦ヲ欺キ六百九拾五圓五拾錢ヲ詐爲シタルモノト認定シ賊盜律詐僞取財條ニヨリ窃盜ニ準シテ論シ士族ナルヲ以テ改正閏刑律ニ照シ除族ノ上懲役十年ノ宣告セシハ相當ナリトス

判決

前ノ如クナルヲ以テ明治十三年二月六日鹿兒島裁判所ニ於テ伊地知季德ニ言渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第四百五十七號

○判文（酒類稅則違犯ノ件）（明治十三年六月一日上告 明治十三年八月廿四日判決）

茨城縣常陸國新治郡土器屋村平民　飯島利兵衛　明治十二年十二月 四十六年一ヶ月

右利兵衛カ明治十二年十二月二十六日土浦警察署ヘ差出シタル始末書左ノ如シ

一濁酒三石八斗五升　御檢査濟ノ分

内
四斗密造搾揚ノ分
此清酒三斗

右奉申上候私儀濁酒釀造營業ニテ本年造込高濁酒三石八斗五升ヲ本年十一月十三日御檢査濟ノ處家作スルニ付テ職人數多雇入清酒入用ノ義出來因之前書御檢査濟濁酒ノ内四斗ヲ先年中醬油營業スル砌相用ヒタル古槽ヲ手入シテ搾揚前記ノ通リ清酒出來候義ノ處去月十七日酒類御檢査官御出張御見咎メヲ蒙リ候義ニテ恐入候事明治十三年五月二十九日水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

前書清酒ハ未タ使用セサル處御見咎ニ相成候其他ハ明治十二年十二月二十六日警察官吏ノ面前ニ於テ申立タル后差出シタル始末ノ通相違無之候也

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月二十九日水戸裁判所管内土浦區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀檢査既濟ノ濁酒ヲ澄酒ニ爲スト雖モ酒類稅則違犯ノ限リニ在ラス

但本文澄酒外二品ハ下ケ渡ス

茨城縣六等警部松島美道ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ明治十三年八月二日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑モ本犯ハ濁酒釀造營業者ニ在テ其釀造スル所ノ濁酒ハ既ニ官ノ檢査ヲ經タリト雖モ未タ其濁酒ヲ以テ清酒ヲ搾揚セシ事ハ嘗テ官許ヲ得サルモノニアリ造石高ノ如キハ本犯ノ始末書ニテ明了ス夫レ如斯擅ニ清酒ヲ自製

シ其造石檢査ヲ受クルノ念慮ナク檢査官ノ取調ニ際シ之ヲ看破ス本犯ハ自家ノ飲料ナリト陳スルト雖モ明治十一年太政官第二十八號布告酒類稅則第三則中第七條ノ明文ニ依リ即チ犯則者タルヲ免カレサルモノト思考セリ然ルニ法官ハ之ヲ稅則違犯ノ限外ナリトシ不問ノ宣告ヲ付スルハ甚不當ノ裁判ト信認ス依之別紙一件書類相副此段上告仕候也

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

飯島利兵衛カ營業上ノ濁酒ヲ搾リ淸酒トナシ自飲ニ供スル處右濁酒ノ營業ハ既ニ許可ヲ經タル者ニシテ其濁酒釀造高三石八斗五升モ明治十二年十一月十三日掛官ノ檢査ヲ經タル者ナレハ之レヲ酒類稅則追加第三則第七條ノ罰則ニ抵觸ノ者ニアラストス何トナレ

ハ前顯第七條ハ造石檢査未濟ノ酒類ヲ自飲ニ用フル者ノ罰則ニテ利兵衛ノ如キハ造石ハ既ニ檢査ヲ經タル者ナレハナリ故ニ水戸裁判所管內土浦區裁判所ニ於テ飯島利兵衛ハ酒類稅則違犯ノ限ニ非スト申渡シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ理由ナルヲ以明治十三年五月二十九日土浦區裁判所ニ於テ飯島利兵衛ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス

第四百五十八号

○判文(賃用受寄財産ノ件)明治十三年五月廿五日上告
明治十三年八月廿四日判決

上總國長柄郡東浪見村

平民勇吉二女

田中ウラ

明治十三年五月十七年

右「ウラ」カ明治十三年五月二十日東京裁判所千葉支廳ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

一自分儀村杉市兵衛ナルモノニ衣類買求度ニ付金壹圓貰受度旨申入候處同人カ申セシニハ一ノ宮本郷村笹屋ト申ス旅人宿ニ同衾一泊スレハ望ミノ壹圓ハ與ヘ呉候旨語リシニ依リ其意ニ應シタル處五圓ノ紙幣ヲ差出シ小紙幣ニ引換ヘ來ラハ其内壹圓引去リ候テ宜ク旨申ニ付右五圓ヲ受取リ其儘不殘衣類等買求メ費用致シ市兵衛ノ約定ニ反シ候始末明治十三年五月十三日千葉縣警保課於テ申立候口供ニ拇印セシ通相違不申上候以上

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月二十日東京裁判所千葉支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀豫テ私通スル村杉市兵衛ノ約定ニ反シ紙幣ノ兌換依頼受ケシ五圓ヲ自己ニ費用シタル科詐欺取財律ニ依リ詐欺シテ財物ヲ取ル者ヲ以テ論シ懲役六十日ノ處情ヲ酌テ二等ヲ減シ懲役四十日申付ル

但費用スル賍金ハ資力ヲ以テ取上ル

千葉縣九等警部高島光太郎ハ明治十三年五月廿五日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

「ウラ」カ兼テ私通致シ居ル村杉市兵衛ニ向ヒ衣類買求代金壹圓貰受度旨申入レタルニ市兵衛儀今夜同郡一ノ宮本郷村旅人宿笹屋ヘ相越同衾一泊致シ候ハヽ右金可遣然ルニ壹圓紙幣持合セ無之ニ付五圓紙幣ヲ兩替シ内壹圓ヲ引去リ殘リ四圓ハ可相返旨ノ約定ヲナシ

五圓札壹枚相渡シタルニ「ウラ」於テ殘リ四圓即チ市兵衛ヘ可相返分ナモ竟ニ費用シタルヨリ市兵衛ヘ對スヘキ面目ナク其儘歸宅シ竟ニ其約ニ反シタルモノニシテ其詐僞シテ財物ヲ取ルノ念慮ナキハ本犯口供幷ニ事主市兵衛ノ始末書等ニ依テ明瞭タリ故ニ該犯ノ罪ヲ擬定スルヤ受寄ノ財産ヲ費用スル賍金四圓坐賍ヲ以テ論スヘキモノト存候然ルヲ同廳於テ前書詐欺取財ヲ以テ論シ賍金五圓懲役六十日ノ處情ヲ酌テ二等ヲ減シ懲役四十日ニ處シタルハ裁判法律ニ違フモノト見込候依テ此段上告仕候也

辨明

被告田中「ウラ」カ村杉市兵衛ヨリ金壹圓貰受ル約束ニテ五圓紙幣ヲ受取リ之ヲ兌換シテ四圓ヲ市兵衛ニ返還スヘキ處買物先ニテ悉皆費用セシハ貰受クル壹圓ノ殘金四圓ハ全ク寄托物ニシテ始ヨリ市兵衛カ五圓札ヲ差出スモノト知テ「ウラ」カ欺取セシコアラサレハ雜犯律費用受寄財産條凡他人ヨリ財物畜産ノ寄托ヲ受ケ輙ク費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ストアルニ照シ處分スヘキモノニシテ詐欺取財ニ問フヘキモノニアラス然ルヲ東京裁判所千葉支廳ニ於テ詐欺取財律ニ依リ詐欺シテ財物ヲ取ル者ヲ以テ論シ懲役六十日ノ處情ヲ酌テ二等ヲ減シ懲役四十日ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月二十日東京裁判所千葉支廳ニ於テ田中「ウラ」ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

田中ウラ

右ハ前ニ辨明スルカ如クナルニ因リ雜犯律費用受寄財産條ニ照シ

賍金五圓以下坐賍ニ一等ヲ減シ減シ盡シテ無科
賍金四圓ハ追シテ事主ニ給ス

第四百五十九號

○判文(官林盜伐ノ件)明治十三年七月十七日上告
明治十三年八月廿四日判決

岩手縣陸中國東閉伊郡
豐間根村平民
佐々木又五郎
明治十三年七月
四十九年二ケ月

右又五郎カ明治十三年七月一日外壹度岩手縣警察署外壹ケ所ニ於テ吟味ヲ受ケシ口供左ノ如シ

一明治九年三月中岩手縣裁判所ニ於テ鬪毆ノ科ニ依リ懲役三十日ニ處セラル

一自分儀農事ヲ業トシ生活罷在候處然ルニ村内字繫ト申ス處ノ川端ニアル樹木ハ自分持林ノ趣祖先ヨリ申傳相成居故從前ハ之レヲ伐採シテ炊材ニ致來ル處去ル明治八年中山林原野取調ノ節右山林ハ自分持林ト云フハ只祖先ヨリノ口傳ノミニシテ別ニ証據モナケレハ遂ニ其山林不殘官地ト御調製相成候ニ付外ニ所有ノ山林無之ニ依村内豐間根七郎左衛門ノ所持山字境ケ澤ヨリ雜木ヲ買求メ炊材ニ充テ居ル處最早其木モ伐盡シ後ヲ如何セント工夫ヲナスニ其官林タルヤ川端ノ樹木ナレハ洪水毎ニ數本流失シ終ニハ其地川原ト相成ルノミナレハ之レヲ只空シク流失セシムルヨリハ官ヘ御拂下ヲ得テ伐採セント思ヘ𪜈其取計致サハ急速御指令ニモ相成間敷且ツ日用ノ炊材ニモ殆ント困迫ノ余リ前條ノ如ク流失セシムルヨリハ焚料ニ爲サント惡心ヲ生シテ今明治十三年三月以來同所ヘ踏

入リ柳或ハ槻ノ類目通二尺回ヨリ一尺回位ノ木數凡三拾本計伐採シ之レヲ薪ニ切割リ自宅ヘ持配リ追々炊料ニセント存シ其儘邸内ヘ積置ク處明治十三年六月廿九日自分用事アリテ山田村ヘ行キ飯宅ノ途中村内字堂ケ鼻ニ於テ不圖三等巡査上川連太郎殿ニ御取押相成リ御分署ヘ拘引セラレ前顯始末御取糾ヲ得今更深ク恐入有体申上候事

明治十三年七月八日宮古區裁判所ノ口供

一右盗伐シタル薪木ハ竪横共六尺ニ積タルヲ一棚ト稱シ都合九棚有之且ツ其一棚ヲ代金ニ積リ拾貳錢宛ニテ合金壹圓八錢ト相成候」

一右盗伐ノ始末ハ警察署ニ於テ御調ノ節申立候通相違無之候得共當廳ニ於テ追々御調相成ル處目通三尺ヨリ壹尺廻マテノ樹木都合三拾三本ニ有之然シテ其代金評價相成ル處金八拾四錢六厘ニ候事」

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月十三日仙臺裁判所盛岡支廳管内宮古區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年三月以來村内官林字繋ニ立入リ樹木盗伐スル賍金壹圓以下ノ科賊盗律常人盗條ニ照比シ常人盗ニ准シテ論シ懲役六十日申付ル

但該樹木ハ取揚ル

岩手縣宮古警察署詰警部代理一等巡査村上平之丞ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月十七日ヲ以テ司法卿ヲ經由シ大審院撿事ヨリ送付シタル上告ノ旨趣左ノ如シ

抑賊盗律常人盗條ハ看守アル官ノ財物ヲ看守ニ非ラサルモノ盗ム律ニシテ佐々木又五郎カ犯ス處ハ口供ニアル如ク官林モ川端ニ生立タル樹木ニテ看守者ナキハ一件書類中ニ看守者ノ始末ナキヲ以

ヲ明瞭セリ果シテ然ラハ賊盜律盜田野穀麥條ニ依リ處分スルモノヽ如シ素ヨリ該條ハ官私ヲ分タス看守スルナキ田野ノ穀麥菜菓及ヒ器物ヲ盜ム者ハ幷ニ賍ニ計ヘ窃盜ニ準シテ論ストアルヲ以テ同條ニ依リ賍金壹圓以下懲役六十日ノ見込ヲ以テ求刑シタルヲ賊盜律常人盜條ニ比照シ常人盜ニ準シテ論シ懲役六十日申付ルト宣告シタル其裁判不服ニ付一件書類取纏メ此段上告仕候也

辨明

被告佐々木又五郎カ官林ノ立木ヲ盜伐シテ自宅ニ持皈リ薪ニ變造シタルハ賊盜律盜田野穀麥條凡田野ノ穀麥菜菓及ヒ人ノ看守スルヿ無キ器物ヲ盜ム者ハ並ニ賍ニ計ヘ窃盜ニ準シテ論ストアルニ擬シ處分スヘキモノニテ之ヲ常人盜ニ準シテ論シ加等スヘキ犯罪ニ非ラストス然ルヲ仙臺裁判所盛岡支廳管内宮古區裁判所ニ於テ賊

盜律常人盜條ニ照比シ常人盜ニ準シテ論シ懲役六十日ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年七月十三日仙臺裁判所盛岡支廳管内宮古區裁判所ニ於テ佐々木又五郎ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スルヿ左ノ如シ

右ハ前ニ辨明スルカ如クナルニ因リ盜田野穀麥條ニ擬シ賍金壹圓以下

懲役五十日

但盜伐シタル樹木ハ取揚ル

佐々木又五郎

第四百六十號

○判文（詐欺取財ノ件）明治十三年二月十三日上告
明治十三年八月廿五日判決

東京府本所區本所龜澤町二丁目平民

長島才次郎
明治十三年一月
三十二年十月

右才次郎カ明治十三年一月十六日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

一明治十一年八月十日東京裁判所ニ於テ詐欺取財ノ科ニ依リ懲役六十日ニ處セラル

一自分儀雜業ニテ差定リタル商業モ無之折柄下谷練塀町谷村藤次郎ナル者ハ兼テ懇意ニ有之候處明治十二年六月中同人儀公債証書賣買致シ候大鋸町小崎孝兵衛ナル者犯罪有之當衙ヘ拘留相成跡商

業向引受罷在候ニ付自分モ罷越店向手傳居候處明治十二年六月十七日藤次郎儀佗ヨリ公債証書額面八百圓ノ賣却賴受ケ候間同商本材木町二丁目毛利文司方ニテ明十八日買取候哉否承リ參リ呉レ候樣申聞ルニ付同人方ヘ至リ承リ合候處買取リ候趣故立歸リ其段藤次郎ヘ申聞置候然ルニ翌十八日午前十一時頃ニ候哉自分ハ入湯ニ相越シ無間モ立戻リ候處留守中當時名前不存本所常盤町一丁目淺井嘉基ニ候哉參リ合二階ニテ藤次郎儀應對致シ居暫時ニシテ同人儀何方ヘ歟外出致シ正午十二時頃ニ至リテモ歸宅不致候處二階ニ待居リ候者下リ來リ藤次郎行衛相尋候間他出致シ候儘立戻リ不申旨相答候處其節ニ至リ初テ淺井嘉基ナル者ノ由ニテ藤次郎ニ額面八百圓ノ公債証書賣渡候筈ヲ以テ相渡候趣ニテ全ク同人持逃致シタル儀ニ可有之旨被相迫候間自分ニ於テ該事ニ携ハラサレトモ藤

次郎氣質ハ相辨居候處決テ持逃等致シ候者ニハ無之今暫ク相待呉レ候樣申聞尚又二階ヘ爲待置ニ再三催促受候ニ付當初藤次郎トノ引合ハ相辨不申ナレモ同人トハ兄弟同樣ノ者故如何樣トモ自分引受談判可致旨相答候處嘉基儀一體藤次郎トノ引合ハ額面八百圓ノ公債証書ヲ百圓ニ付七拾九圓八拾二錢五厘ノ割合ニテ惣代價六百三拾八圓六十錢ニ賣渡候約定ノ由ニテ尤同人ニ於テハ差向キ百圓程ノ入用ニテ其他ハ親族共ヘ預ケ置相當ノ利子受取リ候合ノ由申聞候間自分ニ於テモ當時多分ノ貯金有之譯ハ無之故而金百三拾圓余ヲ相渡殘金五百圓ハ十二年十二月世一日迄ノ借用証書差入金五圓ノ利足月々可差入旨申聞候處嘉基ニ於テ無異儀承諾致シ候間則百三拾八圓六拾錢可相渡處自分所持金何レモ五圓札ニテ同人ニ於テモ可引換小札持合セ無之趣故余金ハ追テ可差出利子ノ内ニ相渡

候約定ニテ金百四拾圓外ニ借用証書一通共相渡シ其節同人ヨリ該代價全額ヲ受取書差出候樣申入候處不案内ニ付認メ貰ヒ度トノフ故六百三拾八圓六拾錢則公債証書八百圓賣渡代價不殘受取ル旨ノ受取界紙ニ認メ本人氏名及ヒ自分宛名ヲハ自筆ニテ認加サセ印紙貼用捺印ノ上受取置キ午後一時半頃嘉基ハ立歸リ候後同二時過頃藤次郎儀歸宅致シ候間嘉基ヘハ自分引受代價相渡置候趣申聞候處藤次郎儀ニ於テハ巨細ノフモ相尋不申則毛利文司方ヘ賣拂候代價尤同日ハ相庭下落ノ由ニテ六百三拾七圓六拾錢差出候間受取置候處翌十九日ニ至リ藤次郎金圓入用ノ趣モ承リ及ヒ居リ候間右ノ内百五拾圓同人ヘ貸遣シ殘金ハ自分不殘酒食遊興等ニ遣捨候事一自分儀小崎孝兵衛方ヘ六月十一日後宿泊致シ候得共右日數ハ毫無之尤始終罷在候儀ニハ無之依且六月三十日ニ淺井嘉基方ヘ利子

可相渡ヲ等閑置候處七月十九日自宅ニ於テ拘引相成候事

明治十一年一月三十一日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀詐欺取財ノ科ニ依リ處刑受ル身分今般小崎孝兵衛留守宅ニ於テ淺井嘉基ナル者ヨリ公債証書買取タルハ同人承諾ノ上代價六百三拾八圓余ノ内百三拾八圓余當金ニ相渡殘額五百圓ハ借用証書ニ取繕ヒタル儀ノ旨申立ルト雖モ抑該事件タルヤ淺井嘉基カ公債証書賣却スルハ該全額ノ金圓入用ナレハ社谷村藤次郎ト其約定ヲナスヿニシテ唯百圓余ノ入質ナラハ該金額而已ヲ賣却スヘキ理ニシテ況ヤ當時初テ應對スル者ニ輙ク多余ノ殘金ヲ貸與スルヿアラソヤ加之孝兵衛雇女押田「シケ」ノ陳述ニ依リテモ該日淺井嘉基ヲ爲待置其方及ヒ谷村藤次郎共不立戻段判然タリ之ニ因テ其事實ヲ推測スレハ當初ヨリ藤次郎共謀シ淺井嘉基ノ公債証書ヲ詐取シタル者ト認定ス右科詐欺取財條ニ依リ賍金百二拾圓以上ナルヲ以テ懲役十年申付ル

長島才次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年二月十三日大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

淺井嘉基ヨリ公債買取タルハト有之雖モ初發ヨリ自分取引ニアラス前日谷村藤次郎ト淺井嘉基ト約定ナシ十八日二階ノ取引藤次郎一時公債預リ外出ス歸宅延引ニ付嘉基心痛ノアマリ谷村藤次郎ヨリ請取置タルト申直段約定書相見世私エ掛合ニ及付熟談取結金圓並ニ借用証相渡ス依テ公債証代濟ノ私名當實筆捺印ノ上請取前書ニ有之直段約定書モ取戻ス事

第二條

淺井嘉基金圓入用ナレハ谷村藤次郎ト其約定ヲナスニ多余ノ金額貸與スルヿアランヤト有之初ノ取引人谷村藤次郎ヘ平常取引ナレハ其意モ有之ヘクカ同人延歸ヲ疑私ニ爲引請熟儀相結非常ノ場合ナレハ其理ナキニシモアランヤ亦熟談不行屆事ニ嘉基金圓受取所持ナスヘク理無之私ヨリ金圓相渡ニモ証無シテ渡ヘク者アルヘクヤ然ルニ嘉基ヨリ實筆印ノ請取書取置ニ此上慥ナル証據有之間敷候事

第三條

押田[シケ]陳述ニヨリ淺井嘉基爲待置不立戻ト有之雖モ右樣ノ義無之私儀淺井嘉基ト熟談取引濟ノ後嘉基ヘ食事等爲致自分モ同席ニテ食事ナシ見世迄送リ相返シ候基後ヲ谷村藤次郎立戻リ見世ニテ面會ス淺井嘉基ノ儀相尋候ニ付私引受濟方候段申聞代價請取証幷

ニ藤次郎ヨリ差出シタハ直段約定書淺井ヨリ取戻シ置兩樣相見セ候上公債代金不殘私方エ請取直樣谷村藤次郎成者用々ノ由ニテ外出セリ尤同人見世迄送リ居候事ハ雇女[シケ]義ハ臺所ト間モハナレ居候間不存義モ難計尙私義雇女[シケ]ニ申聞置ニ我等外出イタシ候間都合ニヨリ不立歸節ハ戸棚ノザルノ中ニ錢入置儘入用ナレハ勝手ニ相用ヘク旨申殘シ他出セリ明朝立戻ルニ雇女[シケ]述ニ昨日他出後淺井嘉基外一名兩人連ニテ長島ニ再應面會致度由ニテ待居タル段[シケ]ヨリ承リ候依テ熟考仕候ニ貳度目ニ待合タルヲ陳述致シタル者ト相心得ル如此手續廉ニ有之候間小細御調直シ願上度然ル上ハ明白タルヘクヤ

第四條

淺井嘉基ヨリ請取タル公債代價濟証書ノ儀御言渡書ノ内ニ相見エ

ス右証ハ私拘留後三課ニテ母親御呼出シ紙入御調ニ相成其内ニ有之ヲ御引上ケニ相成居候間御一見願上度淺井嘉基ヘ差入タル借用証ノ下書有之自分認メ嘉基ヘ相見セ候上本証相認メ差入タルニ付下書文面有ノミ且小崎幸兵衛留守ニ付同人母ヨリ捺印ノ依頼書取有之間同家心得居候哉

第五條

淺井嘉基申立ニハ六月十七日公債証書賣買約定ヲ谷村藤次郎トナス十八日二階ニテ同人ヲ孝兵衛ト心得及取引其節實印幷ニ界紙ヘ名當長島才次郎ト認メ自分名前兩様共實筆ニテ捺印ノ上前白ニシテ壹枚相渡シタル由ニ候ヘ共ナンソヤ初テ取引ナス心底不知者ニ前白或ハ大切ナル實印其儘相預ケヘク趣意ナシナヲ小崎孝兵衛ト心得居者カ長島才次郎ト名當違ヲ認メ相渡ヘク筈無之谷村藤次郎

ニナイテモ印形丸テ預ル位ナラハ長島才次郎名當ノミ壹枚實筆ニテ請取ヘク理更ニアル間敷全ク私及ヒ淺井成者ト熟意ノ上當金相渡シ殘金ハ証書ニ取結タルニ付公債代濟ノ証書實筆ニテ認メタル私方ヘ請取タルニ相違無之タトヘ何程ノ金額ナリ共其事故場合ニヨリ熟議取結ニ至ル事マヽ多シ且淺井嘉基義私方ノ金圓所持ナス處ヲ以熟談濟ノ慥成証據タリ嘉基ヨリ請取タル証書前文代筆ヲ幸悪意起相渡シ有之借用証取隱シ吟味願致シ候事ニシテ御調ノ節者代人成者罷出扱言多シ右等ノ御吟味ナスニ本人出願無之ハ小細リクノ事實ニ不至雇女「シケ」義愚成者シテ月數モ相立失念ノアマリ何様ノ儀申立候ヤ難計候ヘ共前三條ノ内ニ明細記載スル廉々モ有之且淺井嘉基先ニ壹人ニテ參リ二度目ニ來節ハ兩名ノ由ヲ「シケ」ヨリ承リタリ「シケ」ノ陳述トハ二度目ニ待居タルヲ申上タル義ト存候右

申上候事柄共御照合ノ上御調直シ願フ慥ナル確証有之ニ曖昧タル事ヲ以大罪ノ見込御認定不服ニ付上告仕候何卒厚キ以御仁恵ヲ明瞭ノ御判決奉願上候以上

大審院ニ於テ裁判スルヿ左ノ如シ

辨明

被告長島戈次郎於テ淺井嘉基ヨリ公債證書代金濟ノ請取書取置ノミナラス自分ヨリ相渡タル金員ヲ嘉基カ所持ナス上ハ貸借熟談ノ證ナリト申立レヒ嘉基カ數百圓ノ金額ヲ初對面ナル被告ニ貸渡スヘキ謂レナク仮ヒ之レヲ貸渡スモ必ス抵當受證人等ノ方法ヲ尽シテ貸渡スヘキヲ其順序ヲモ經サルハ貸借ノ熟談セシ者ト認メ難ク又嘉基ノ押印アル公債證書代金濟ノ受取書ヲ所持スルモ其受取書タルヤ本文ト性名年月日ト手蹟ヲ異ニシ即チ嘉基ノ依頼ニ任セ本

文ノミヲ認メタリト申立ツレヒ嘉基ヨリ谷村藤次郎ヘ界紙ニ年月日姓名ノミニ認メ相渡シタル趣ナレハ右ノ界紙ニ被告於テ銘カニ受取ノ文ヲ認メタルニ相違ナシ何トナレハ受取書ノ如キ別段ノ文式等アルモノニ非レハ無筆ニ非ル嘉基カ自書セスシテ他人ニ依頼スヘキノ理由無レハナリ又百四拾圓ノ金額ヲ嘉基ノ持歸リタルハ藤次郎モ被告モ共ニ不在殊ニ公債證書代金ノ一部分ナレハ之ヲ以テ熟談上ノ證トナスニ足ラサル者トス又被告於テ嘉基ヲ待タセタル儀ナク押印「シケ」カ口供ハ嘉基カ両度目ニ參リタル節不在ナリシヲ申立シナラント申立レヒ嘉基ハ日暮迄相待ト云ヒ又押印「シケ」ノ手續書ニ御客様ハ午后五時比迄相待トアリテ其日時共ニ符合スル上ハ六月十八日ニ嘉基ヲ待タセタルヿ瞭然ナリ依テ東京裁判所ニ於テ被告ノ罪ヲ斷スルニ詐欺取財條ニ依リ賍金百貳拾圓以上ナルヲ以

テ懲役十年ト申渡タルハ不法ノ裁判ニアラス

判決

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十三年一月三十一日東京裁判所ニ於テ長島才次郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ

第四百六十一號

○判文(詐欺取罪ノ件)明治十三年二月十三日上告
明治十三年八月廿五日判決

東京府下谷區下谷練塀町四十九番地平民

谷村藤次郎

明治十三年一月
二十四年六月

右藤次郎カ明治十三年一月十六日東京裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シ

タル口供左ノ如シ

自分儀雜業ニテ差定リタル渡世ハ無之大鋸町七番地小崎孝兵衛ハ公債証書賣買致シ候者ニテ兼々懇意ニ致シ候間同人方ヘ至リ商業向手傳罷在候處明治十一年六月十一日孝兵衛儀當衙ヘ御呼出ノ上拘留相成候處留守中家事向万端心得呉レ候樣頼受候ニ付店向商業等引受罷在候折柄兼テ懇意ナル本所龜澤町二丁目長島才次郎モ尋參リ是又孝兵衛ノ知ル人ニモ有之候間右次第柄申聞店向爲手傳置候處明治十二年六月十七日午後四時頃深川常盤町一丁目淺井嘉基ナル者罷越七歩利付金錄公債証書額面八百圓賣拂度趣ニテ直段承合候間百圓ニ付代價七拾九圓八拾貳錢五厘ニテ買受ヘク旨相答候處翌十八日証書持參取引可致ト相約シ候ニ付素ヨリ手許ニ金圓モ無之間本材木町二丁目毛利文司ハ同商ニ付同人方ニテ引受候哉ト

前書長島才次郎ヲ以テ承合候處引受候趣故翌十八日午前十一時比
淺井嘉基公債証書五百圓壹枚三百圓一枚併セテ二枚持參ニ付二階
ヘ相通シ候處賣却方不案内ニ付可然取扱呉レ候樣頼聞候間則委任
狀並檢印願讓渡書三通共習慣ニ任セ委任狀ハ委任狀ノ事ト認姓名
ヲ記載シ外二通モ同樣ノ振合ニテ外ニ印鑑壹枚認メ捺印爲致タル
上公債証書ト共ニ受取直チニ金圓可相渡旨申聞置前書毛利文司方
ヘ至リ前日申込置候通リ賣渡候處同日ハ相庭下落ニテ百圓ニ付七
拾九圓七拾錢替ニ付嘉基ト約定ヨリハ大ヒニ相違シ損毛ニ至リ候
間猶株式取引所ノ景況ヲモ一見スヘシト同所ニ至ルモ同樣ノ相庭
故同二時過立戻リ候處最早淺井嘉基ハ居合セ不申候間長島才次郎
ニ承リ合候處同人ヨリ嘉基ヘハ代價渡方相濟証書モ受取置候趣故
深ク子細モ不承則右金圓ハ才次郎ヘ相渡置候處翌十九日ニ至リ同

人ヨリ金圓入用ニ候ハヽ貸シ遣スヘク旨申ニ任セ金百五拾圓借受
酒食遊興等ニ費用致シ候事
一小崎孝兵衛方ヘハ明治十二年五月廿日ヨリ宿泊シ同六月十九日
同人方立出候事
明治十三年一月三十一日東京裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ
其方儀小崎孝兵衛拘留中同人店ニ於テ淺井嘉基ナル者ヨリ公債証
書買取約定ヲナシ同人承諾ノ上委任狀其他ニ捺印シ該証書毛利文
司方ヘ持參シ代價引換ノ上立戻ルニ已ニ淺井嘉基ヘハ長島才次郎
ヨリ代金渡濟ノ趣故該代金ハ才次郎ヘ渡シタル儀ト申立ルト雖モ
抑該事件タルヤ嘉基ニ於テ全金額入用ナレハ祖引換ヲ要スルヿニ
シテ才次郎供出ノ如ク代價ノ内輙ク証書ニナスヘキ理由決テアラ
ナルヘシ加之孝兵衛雇女押田「シケ」ノ陳述ニ依リテモ該日嘉基ナル

者ヲ爲待置其方及ヒ才次郎共不立戻段判然タリ之ニ因テ其事實ヲ推測スレハ當初ヨリ才次郎ト共謀シ淺井嘉基ノ公債証書詐取シタル者ト認定ス右科詐欺取財條ニ依リ賍金百貳拾圓以上ナルヲ以テ懲役十年申付ル

谷村藤次郎於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年二月十三日大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

第一條

今般認定ニ相成候一ノ証據トスル淺井嘉基金額入用ナレハ引換ヲ要スルヿコシテ戈次郎ヘ代價ノ内輙ク証書ニナスヘキ理由アラサルヘシト有之候ヘ共私義ハ毛利文司方ヘ參リ立歸ルニ最早淺井嘉基者立戻リ候事故事實長島戈次郎ニ於テ証書ニ取結ヒ候ヤ皆金相渡候ヤイカナル約定ニテ濟方致候ヤ其義ハ留守ノ事故不存義ニテ

唯才次郎ニ於テ嘉基ヨリ請取置金圓渡濟ノ請取証並ニ前日淺井ニ渡シ置公債買取直段約定書等有之ヲ一見致シ右代價才次郎ニ相渡タル義ニ候淺井嘉基代價濟方ニ不成ノ請取証可差出筈モ無之候

第二條

今般第二ノ証據トスル押田[シケ]ノ陳述ニテ該日嘉基ヲ爲待置不立戻ト有之全ク左樣ノ義無之淺井嘉基ハ該日一度立戻リ候ニ相違無之尤同人該日二度參リ長島才次郎ヘ面談致度旨申待居候處才次郎並ニ私共他出致居不立戻ニ付[シケ]成者ハ此義ヲ陳述致タル事ト存スル其故ハ翌十九日才次郎私兩人ニテ小崎孝兵衛宅ヘ詰合候節[シケ]申候ニハ昨日淺井嘉基二度目ニ參リ長島才次郎ヘ面談致度旨ニテ相待居タル由ヲ承リ候左スレハ嘉基該日一度立戻リ二度私共留守ヘ參リ待居タル事ニシテ何モ嘉基ヲ爲待置不立戻ト云事アラン

ヤ

右等ノ義押田「シケ」ヘ明細ニ御尋被下候ヘハ相分リ候

第二條

右樣曖昧ナル証據ヲ以テ認定御處刑ニ相成候者甚タ難澁仕候尤是迄第三課御掛ノ御調ニ淺井嘉基ヨリ公債証書請取節同人ノ實印並ニ界紙ヘ名前ト當名長島才次郎殿ト書セ請取タルヘシト御糾問有之私一切左樣ノ義ハ無之旨御答仕候

第四條

淺井嘉基ヨリ私ヘ請取候者公債証書幷ニ委任狀檢印願讓渡証外ニ印鑑紙壹枚ノミニテ其他証類ハ一切受取不申候且請取候証類ハ前文ニ名前ノミニテ後文ハ認メス其儘毛利文司方ヘ賣却致候也嘉基カ私ニ實印相渡シ候ナリトハアト方モ無之詐ニテ嘉基ヨリ實印請

取居候ヘハ右証類ノ文意ハ不殘認メ賣却スヘキ理ニシテナンソ前文ニ名前ノミニテ賣却スヘキ理由アランヤ又淺井嘉基ノ申立ニハ私義ヲ小崎孝兵衛ト相心得居タル旨ヲ申立ナカラ私ヘ當名違ノ証類ヲ可差出筈モ無之全ク淺井嘉基ノ皆詐ナル訴ニテ候ナリ然ルヲ才次郎ト共謀シ公債証書ヲ詐爲シタル者ト認定御處刑ニ相成候者イカナル法理ニ候ヤ自分ニ於テ右樣ノ罪犯致候覺一切無之詐欺致候位ナラ才次郎ト共謀ニ不及私一人ニテ右金額ハ私用スヘキ理ニシテ才次郎ヘ皆金可相渡理由無之候

上告補正書

第一條

自分罪犯ノ証據ハ押田「シケ」ノ陳述而已ニ止マリテ宣告書前文ニ有之長島才次郎ニ証書ニナスヘキ理由無之ト文意有之共此義ハ長島

才次郎ニ於テ扱タル事ニシテ先般明細書ニ記載セシ通リ自分ニ於テ關係無之者ニ候且ツ押田〔シケ〕ノ陳述トテモ先般明細書ニ記載セシ通リ該日嘉基ヲ爲待置不立戻ニハ無之嘉基カ私無留守宅ヘ參リ待居タルヿノ陳述ニシテ徵〔原ノマヽ〕モ効ナキ者ニ候

第二條

第三課並ニ東京裁判所御糺問ノ節押田〔シケ〕ノ陳述有之事ヲ一應ノ御尋問モ無之ノミナラス前條ニ記載セシ通リ徵モ効ナキモノナ罪犯ノ証據トスルハ乍恐不法ノ御判決ト奉存候

認定裁判トハ確乎タル証據ヲ以判決スルニハ非スヤ然ラハ自分口供ニモ有之通リ公債証書代價ヲ才次郎ヘ不殘相渡シタルノミニテ其他ニ關係無之義ニ候何ソ淺井嘉基ヲ詐欺シタル証據之可有筈無之候

右記載仕候文意ノ通リ聊カモ詐欺念無之故右ノ情犯御配量被下只管明正至仁ノ御寛典ニ被處至當ノ御裁判被成下度此段伏テ奉願上候以上

上告補正追伸書

私口供ニモ有之候通リ小崎孝兵衛店ヘ雇人替リニ手傳ニ參リ居候處同人義去ル明治十二年六月十一日東京裁判所檢事局ヘ御拘留ニ相成候節同人店家事向活計並ニ見世商業等私ニ依賴被致候ニ付世話致居候内ニ淺井嘉基件ノ外公債証書賣買ハ日々取扱居候得共不正ノ所行致タル口一切無之候淺井嘉基件トテモ先般明細書ニ記載仕候通リ毛利文司方ヘ賣却ノ上嘉基ヘ該金相渡可心得ニテ立戻リ候處最早嘉基ナル者ハ立歸リ長島才次郎ニ於テ嘉基ヘ濟方致タル請取証書有之ニ付才次郎ヘ該金相渡シ候義ニシテ聊不正ノ所行致

タルニハ無之候
且私義ハ自宅モ有之ニ付孝兵衛方ヘ始終宿泊仕候義ニハ無之候且
同人店商業ニ追々閑暇ニ相成ニ付長島才次郎ヘ頼置私義ハ自宅ニ
居候也尤孝兵衛拘留ニ相成ニ付六月十二日同所差配人ヘ私住所姓
名ヲ記シ孝兵衛店世話致ニ付宿泊仕候旨ヲ届置候也
淺井嘉基ト公債証書取引致候者六月十八日ニ候私始テ第三課ヘ御
呼出シニ相成候者六月十七日ニ候何モ嘉基カ欺カレタル者ナラ直
ニ可訴出筈左スレハ翌日ニモ御呼出シニ相成御調可有筈ニ候然ル
ヲ三十日間モ過去御呼出シニ相成候全ク嘉基カ一時承諾セシヲ二
度心變シテ詐ナル訴セシ故ニ時日モ遲レタル者ト存候
右記載仕候通リ私義ハ聊不正ノ所行致タルニ無之候且私義ハ一人
ノ老夫モ有之外ニ存留可致者無之候上老夫ヲ憫給シ私身分明瞭ニ

御調ノ上只管明正ノ御寛典ニ被處至當ノ御判決ヲ蒙度此段伏テ奉
哀告候以上

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

被告谷村藤次郎於テ公債証書代金相濟サヽルニ於テハ淺井嘉基ヨ
リ受取書差出スヘキ條理ナシト申立レ已右受取書ノ年月日ト姓名
ハ嘉基自書シ其儘本文ハ長島才次郎ノ執筆ニ係ルヿハ才次郎於テ
モ供述シ且ツ嘉基ハ被告ニ公債証書ヲ渡シタル砌双方宛名ノミ認
メタル界紙ヲ相渡シタリト云フヲ以テ觀レハ右受取ノ文ヲ才次郎
於テ筋ニ認メタルニ相違ナシ何トナレハ受取書ノ如キ別段ノ文式
等アルモノニ非レハ之レヲ他人ニ依頼スルノ理由無レハナリ又嘉
基ヲ待タセタル儀ナク押田[シケ]カ供述ハ全ク嘉基カ兩度目ニ參リ

タル節不在ナリシヲ申立シナラント申立レモ嘉甚ハ日暮迄相待ト述ヘ押田〔シケ〕ノ手續書ニ御客樣ハ午后五時頃迄相待トアリテ日モ時限モ相符合スレハ六月廿八日ニ嘉甚ヲ俟セタルニ相違ナク又嘉甚ハ自分ヲ孝兵衛ト心得タル趣ナルニ才次郎宛ノ書面ヲ差出スヘキ條理ナク且ツ公債証書ヲ取引セシハ六月十八日ナルニ七月十七日ニ至リ召喚セラレシハ嘉甚於テ已ニ許諾セシヲ後日ニ至リ變心セシ証ナリト申立レモ受取書ナル者ハ其本人宛ニ認ムルモ取引人宛ニ認ルモ妨ナク又被告カ召喚ヲ受ケタルハ七月十七日ナルモ嘉甚カ警視本署ヘ吟味ヲ願出シハ明治二十年六月廿日ニシテ時日遲緩セシニ非レハ之ヲ以テ變心ノ証トナスヲ得ス又老父存在ニ付侍養致シ度趣ニ申立レモ被告ノ父伊三郎ハ其原籍調書ニ文政十二年十二月生トアレハ當明治十三年迄僅ニ五十年餘ニ過キスシテ癈篤

○か

疾ノ証憑モ無レハ存留ヲ聽スノ限ニ非ルモノトス依テ東京裁判所ニ於テ被告ノ罪ヲ斷スルニ詐欺取財條ニ依リ贓金百貳拾圓以上ナルヲ以テ懲役十年ト申付タルハ不法ノ裁判ニアラス

判決

前ニ辨明スル如クナルヲ以テ明治十三年一月三十一日東京裁判所ニ於テ谷村藤次郎ニ申渡タル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者也

第四百六十二號

○判文（賭博再犯ノ件）明治十三年六月八日上告
明治十三年八月廿五日判決

大分縣豐後國直入郡佛原村平民　田北和市

右田北和市カ犯罪ニ對シ明治十三年六月二日熊本裁判所管内竹田區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ　明治十三年六月　四十年三ヶ月

其方儀賭博一件審問ヲ遂ケ裁判スルヿ左ノ如シ

其方ニ於テ明治十三年五月六日同郡有氏村温泉ニ入浴ノ爲メ罷越シ居リタル處同所ニ於テ居村梶原定次郎ニ出會シ正東五市毋カ別居ニ至リ定次郎ト共ニ一酌相催シ居ル中姓名知ラサル者二名來リ其方等ノ宴席ニ相加リ一同飲酒ノ際其方ノ發意ニテ博戯可致旨一同ヘ申聞ケタル處孰レモ同意ニ付其方ハ莨ヲ以テコマヲ取拵ヘタルモ博戯ニ用フル骰子骨牌無之ヨリ博戯ハ相止メ右ノコマヲ以テナンコト唱ルケンヲ相始メタル折柄家主吾市モ來リ是亦酒席ニ相加リ五人一同ナンコヲ打居ル央突然巡査出張相成タルヨリ直ニ其

場逃走致シタル次第ニテ決シテ博戯致シタルヿ無之旨辨解スト雖モ第一巡査ノ証告書第二黨類正東五市ノ仮口供第三其場ニ殘シアル博戯ノ器具今此第一第二第三ノ証憑ハ皆以テ其方カ博戯ヲナシタル証徵スルニ足ルモノニシテ其方ハ其各証憑ニ對シ博戯ヲナシタルヿナシトハ云フヲ得可カラサルモノトス加之若シ其方ニ於テ單ニナンコヲ打チ居リタル迄ナラハ巡査ノ出張スルニ際シ狼狽其場ヲ逃走スル謂レナシ然ルニ其方一人而已ナラス黨類四人一同逃走スルモノハ畢竟其己レノ必ニ於テ快ラサルノ行爲ヲナシタレハ社狼狽シテ逃走シタルヤ敢テ疑ヲ容ル可カラサルニ付今ヤ其方ハ正東吾市外三名ト財物ヲ賭シ博戯ヲナシタルモノト認定シ其行爲ヲ採テ之レヲ法律ニ照スニ抑モ其方カ正東吾市外三名ト財物ヲ賭シ博戯ヲナシタルハ却テ雜犯律賭博條ニ該ル罪ヲ犯シタルモノナ

リトス依テ雑犯律賭博條凡財物ヲ賭シ博戯ヲナス者ハ皆杖八十ト
アルニ照シ懲役八十日可申付處其方ハ明治十一年十一月二十一日
及ヒ明治十一年十二月十三日賭博ノ科ニ依リ當裁判所ニ於テ再度
斷決ヲ經タルモノニ付改定律例第二百六十九條凡賭博三犯以上ハ
懲役一年トアルニ依リ懲役一年申付ル
但コマ五拾五本及ヒ茶碗一箇ハ官没ス
大分縣八等警部新庄久之ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三
年六月八日司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ送付シタル上告狀左ノ
如シ
該犯明治十一年十一月廿一日賭博ノ科ニ依リ杖八十ニ處セラルヘ
キ處自首スルヲ以テ免罪セラレ其後明治十一年十二月十三日賭博
ノ科ニ依リ杖八十ニ處セラレタル始末ハ別紙宣告書寫ノ通リ判然

タリ然ルニ該犯明治十三年五月六日尚又賭博取行ヒタルニ付賭博
再犯ノ罪ニ該ル見込ヲ以テ熊本裁判所管内竹田區裁判所ヘ及求刑
候處該區裁判所ニ於テ明治十三年六月二日別紙宣告書ノ通改定律
例第二百六拾九條ニ依リ懲役一年ノ處斷相成タリ依テ按スルニ該
犯カ明治十一年十一月廿一日賭博初犯ノ罪ハ自首スルヲ以テ首免
ヲ與ヘラレ明治十一年十二月十三日再犯ノ時初犯ノ例ニ照シ杖八
十ノ處斷ヲ受タルニ因リ明治十三年五月六日賭博ヲ爲シタルハ三
犯ト雖モ再犯ヲ以テ論シ懲役九十日ニ處スヘキモノナルヘシ然ル
ニ該區裁判所ニ於テハ初犯ノ時首免ヲ與ヘタルモ犯數ニ算ヘ之ヲ
三犯以上ノ例ニ依リ懲役一年ニ處斷シタルハ不當ノ裁判ト見込候
ニ付一件書類相副此段及上告候也

辨明

田北和市カ明治十一年十一月廿一日竹田區裁判所ニ於テ賭博ノ科ニ依リ懲役八十日ノ處事未タ發覺セスシテ自首スルニ付免罪尚明治十一年十二月十三日同裁判所ニ於テ同科ニ依リ懲役八十日杖ニ換杖八十ニ處セラル尚又明治十三年五月六日正東五市等ト金錢ヲ賭シ博戲ヲ爲シタルハ其三犯ニ係ルモ初犯ハ自首免罪再犯ノ時其罪初犯ノ例ニ照シ懲役八十日三犯ノ時其罪再犯ヲ以テ論シ之レヲ名例律再犯加等罪例ニ照スニ窃盗及ヒ賭博ヲ犯シ云々再ヒ犯ス者ハ并ニ後犯ノ本罪ニ一等ヲ加フトアレハ則賭博條財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者皆杖八十トアル本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役九十日ニ處スヘキモノトス然ルヲ熊本裁判所管内竹田區裁判所ニ於テハ和市カ罪ヲ改定律例第二百六十九條ニ照シ賭博三犯懲役一年ト處斷シタルハ新庄警部意見ノ通不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年六月二日熊本裁判所管内竹田區裁判所ニ於テ田北和市ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

田北和市

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者賭博條ニ依リ懲役八十日ノ處再犯加等罪例ニ照シ本罪ニ一等ヲ加ヘ懲役九十日

第四百六十三號

○判文（不應爲ノ件）明治十三年六月一日上告
明治十三年八月廿五日判決

愛知縣三河國碧海郡刈谷村平民

井上彦藏

右彦藏外二名ヘ明治十三年五月二十九日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於ヲ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

明治十三年五月
五十四年二ヶ月　小原富吉

明治十三年五月
二十四年四ヶ月　太仲敬英

明治十三年五月
四十三年六ヶ月　井上彦藏

其方儀明治十三年五月十日岡崎區裁判所ヘ勸解出願セント欲スルノ折柄同日知立警察署ヨリ提喚相成タル迚其出頭ヲ遁レン爲メ已ニ勸解御用中ト詐リ不都合ノ日延書ヲ該署ヘ差出タル科雜犯律不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓廿五錢申付候事

其方儀明治十三年五月十日井上彦藏ノ依賴ヲ受ケ知立警察署ノ提喚ヲ遁レン爲メ其不實ナルヿヲ知リナカラ岡崎區裁判所ノ御用中ト詐リタル不都合ノ日延書ヲ認遣シタル科雜犯律不應爲輕ニ問ヒ彦藏ノ從ヲ以テ論シ一等ヲ減シ懲役二十日ノ贖罪金壹圓五拾錢申付候事

小原富吉

太仲敬英

其方儀明治十三年五月十日井上彦藏ノ依賴ヲ受ケ知立警察署ノ提喚ヲ遁レン爲メ詐リタル不實ノ日延書ナルヿヲ知リナカラ之カ代人トナリ記名押印ノ上該書面ヲ同署ヘ差出シタル科雜犯律不應爲輕ニ問ヒ彦藏ノ從ヲ以テ論シ一等テ減シ尙一等ヲ酌減シ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢申付候事

愛知縣十等警部平埜兼三郎ニ於テ明治十三年六月一日右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ明治十三年八月四日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

被告人井上彦藏警察署ノ喚出狀ヲ請ケナカラ一時之ヲ遁レンカ爲メ上ニ不實ヲ告ケ及小原富吉太仲敬英ハ其情ヲ知テ不實ノ書面ヲ認メ或ハ之ヲ警察署ニ差出タル犯罪例第二百四十七條事情輕キ者ニ擬シ主從ヲ分チ處斷ナルヘキモノト見込明治十三年五月廿四日名古屋裁判所岡崎支廳ヘ公訴シタリ然ルニ同衙於テ明治十三年五月廿九日別紙宣告寫ノ如ク雜犯律不應爲ニ問擬處斷ナリタルハ當ヲ得サルノ裁判ト思料ス依テ上告ヲ爲スノ趣意左ノ如シ

夫レ犯罪ノ事タルヤ一タビ不應爲タラサルハ無シト雖モ其性質方法及事ヲ果スニ至リ初メテ其罪名ヲ異ニス故ニ法律モ亦異々正條

ノアルアリ而テ被告事件ノ如キハ例第二百四十七條ヲ以テ明々的々タル正條ナリトセサルヲ得ス如何トナレハ明治十三年五月八日本縣知立警察署ヨリ被告井上彦藏ヘ對シ明治十三年五月十日午前第九時出頭スヘキノ呼出狀ヲ發シ被告彦藏ニ於テハ明治十三年五月九日該喚出狀ヲ請取タリ然ルニ當月名古屋裁判所岡崎區裁判所ヘ勸解出願スヘキ事件アリ迎爲ニ警察署ノ呼出ヲ遁レンコトヲ小原富吉ヘ謀リ富吉ハ直チニ之ヲ酌ンテ岡崎區裁判所ヘ正當ノ用アリト詐テ不實ノ日延猶豫ヲ乞フノ願書ヲ認メ太仲敬英ヘ其書面ノ不實ナル情ヲ含メ知立警察署ヘ差出ス事ヲ嘱託シタルニ敬英之ヲ諾シ該書面ヘ彦藏ト共ニ署名押印シテ警察署ニ差出シタリ夫レ如此無謂官衙ノ用ニ名ヲ借リ實ナキ事ヲ上ニ告ケタル者ナレハ則例第二百四十七條ニ觸レタル犯罪ト考量セリ因是原裁判ノ破毀ヲ求メ

ソトスル所以也

辨明

井上彦藏カ明治十三年五月十日知立警察署ノ召喚ヲ受其出頭ノ期ヲ延サントシテ岡崎區裁判所勸解御用中ノ趣ニ申偽小原富吉ニ依頼シ日延願書ヲ認メ太仲敬英ヲ以テ代人トシテ右願書該警察署ヘ差出シタルハ岡崎區裁判所出頭中ニハ非サレトモ警察署召喚一兩日前ヨリ勸解出願ノ念慮ニテ既ニ出頭ノ運ニ至ル塲合警察署ノ召喚ヲ受ケタルヨリ其出頭スヘキ時日ヲ延期シ一時己ノ宿意ヲ達セントスルノ情意ニ出テタル迄ニシテ警察署ノ召喚ヲ規避スルノ意匠アルアラス其延期ヲ乞フノ事實ヲ偽ルハ素ヨリ道理上爲スヲ得ヘカラサルハ論ヲ俟タスト雖モ之レヲ告上不實ニ問擬スヘキ者ニアラス而テ富吉敬英ハ彦藏カ從犯タル無論ナレハ他ニ辨明ヲ要

セサルナリ故ニ名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ彦藏カ罪ヲ斷スルニ雜犯律不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ノ贖罪金貳圓貳拾五錢富吉ハ彦藏ノ從ヲ以テ論シ一等ヲ減シ懲役二十日贖罪金壹圓五拾錢敬英ハ尙一等ヲ酌減シ懲役十日ノ贖罪金七拾五錢ト申渡シタルハ不法ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年五月二十九日名古屋裁判所岡崎支廳ニ於テ井上彦藏外二名ヘ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキ者トス

第四百六十四號

○判文（賭博ノ件）明治十三年七月十九日上告
明治十三年八月二十五日判決

福島縣磐城國東白川郡

西河内村平民久米太郎
父　根本伊兵衛
明治十三年七月
四十年

右伊兵衛カ明治十三年七月十日福島裁判所管内白川區裁判所ニ於テ審問ヲ受ケ爲シタル口供左ノ如シ

一自分儀妻アリ文字知ラス明治十三年五月二十四日同郡臺宿村々社祭禮ニ付參詣トシテ罷越シ同村金澤利左衛門宅ヘ立寄候處同家ニ於テ先般御處分相濟タル同郡下山本村金澤利兵衛外五名其他現場逃走シタル八槻村武田長次郎外十二人申合金錢ヲ賭ケ博戲相犯シ候處巡査御出張御召捕ノ際逃走候ヘトモ到底難遁ト存シ明治十三年七月六日棚倉警察分署ヘ自首仕候事

一賭場ノ博器場錢ハ當時御引上相成候趣今般御吟味ニテ承知仕候事

明治十三年七月六日自首狀差出タル末明治十三年七月九日白河警察署ニ於テ爲タル口供左ノ如シ

自分儀明治十三年五月廿四日磐城國東白川郡臺宿村々社祭禮ニ付參詣旁同村金澤利左衛門方ニ用事之レアリ立越候所同人不在ニハ候得トモ留守宅ニ於テ同郡下山本村金澤利兵衛田村金四郎八槻村武田長五郎東河内村藤田新藏塙村鈴木幸助伊野上村鎌田銀次郎其外生所姓名共知レサル男十三名程ニテ錢賭ケノ勝負致シ居ルヨリ兼テ好物ナルヲ以直チニ其場ヘ相加ハリ頻リニ勝負相爭ヒ居候處突然巡査方ヨリ御見咎ヲ受ケ御召捕ノ上護送ノ途中塙村武石源兵衛方止宿ノ際看護人ノ隙ヲ窺ヒ窃カニ逸走所々ニ潛匿致シ居候得

共到底罪ノ逃カレ難キヲ覺トリ先非ヲ悔悟明治十三年七月六日棚倉分署ニ首出候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年七月十日福島裁判所管内白河區裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年五月二十四日同郡臺宿村金澤利左衛門宅ニ於テ金澤利兵衛外十八名申合セ金錢ヲ賭ケ博戲ヲナシタル科雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日捕獲ノ際現場逃走シ追悔出首スルニ付聞捕自首ヲ以テ論シ一等ヲ減シ同七十日杖ニ換ヘ杖七十申付ル

福島縣十等警部上泉秀朗ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ司法卿ヲ經由シ本院檢事ヨリ明治十三年八月十七日本院ヘ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

抑該犯伊兵衛ノ犯罪タル明治十三年五月廿四日金澤利左衛門宅ニ

於テ金澤利兵衛外十八名申合セ財物ヲ賭シ博戲致居夾捕吏之レヲ撞見シ捕獲ノ末護送之途中武石源兵衛方止宿之際看守ノ透キヲ窺ヒ逃走シタル事別紙巡査捕獲手續書及ヒ本犯自首書ニテ瞭然タリ依テ追悔自首スト雖モ改定律例第二百九十七條云々若シ囚禁及ヒ責付内ニ逃走シテ自首スル者ハ止タ本罪ヲ科シ逃罪ヲ免ストアルニ照シ本犯伊兵衛ノ自首ハ本罪經（原ノマヽ）減セスシテ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日ニ處スヘキ者ト考量ス是福島裁判所管内白河區裁判所ノ裁判不當トシテ破毀ヲ求ムル所以ナリ

辨明

根本伊兵衛カ自首ノ如ク明治十三年五月二十四日金澤利兵衛宅ニ於テ利兵衛等ト申合セ財物ヲ賭シ博戲シ縛ニ就キ護送ノ際看守者ノ隙ヲ窺ヒ逃走シ其后悔悟自首スル者ナレハ改定律例第二百九十

七條ニ依リ逃罪ヲ免シ賭博罪懲役八十日ニ處スヘキ者トス然ルヲ福島裁判所管内白河區裁判所ニ於テ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日捕獲ノ際逃走シ追悔首出スルニ付キ聞捕自首ヲ以論シ一等ヲ減シ同七十日杖ニ換ヘ杖七十ト申渡シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以明治十三年七月十日福島裁判所管内白河區裁判所ニ於テ根本伊兵衛ニ申渡タル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

根本伊兵衛

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ依リ逃罪ヲ免シ雜犯律賭博條ニ依リ懲役八十日

第四百六十五號

○判文(責付内逃走又犯罪ノ件)明治十三年四月二十日上告明治十三年八月廿六日判決

高知縣土佐國中島町住士族當今禁獄者

宮井鐘次郎

明治十三年三月十七ヶ月

右鐘次郎カ明治十三年三月十二日及ヒ四月六日高知縣高知警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ口供左ノ如シ

明治十二年二月五日高知裁判所ニ於テ鬬毆ノ條ニヨリ禁獄七年ニ處セラル

自分儀禁獄七年刑限中明治十二年(月日失念)ノ頃病氣ニ罹リ父守衛ノ願ニ依リ責付セラレ加養候處明治十二年八月(日失念)ノ頃爾來熟懇ナル土佐郡北街ノ内新町田淵住士族濱口愛之ナル者自宅ニ來リ面談中曾テ香美郡赤岡村住姓名不存者ヨリ同郡江ノ口村住士族深

瀬孝太郎所有地香美郡岩村郷堀内村有之分ヲ賣却スル趣承リ居リ候ニ付取モ直サス其話セシニ同人ハ今中持シテ賣捌ハ至極宜シカルヘシト相答フルニ付自分實際孝太郎ヨリ依頼セラレタルモノニ非ス無形ノ「ナレ」ヒ不圖偽心ヲ發起シ同人ヘ病氣且刑限養生中ノ事ナレハ心儘ニ周旋難致ヨリ賣捌方ヲ依頼セシニ幸ヒ受合呉レ万端同人ノ周旋ニ依ツテ地所反別書等モ出來其后同年十月十六日ニ至リ土佐郡高知街ノ内本町寄留藤芽健彦實地檢査ノ上隨分宜キ由ニテ代價貳百拾三圓貳拾錢ニ買受度就テハ約定証ヲ爲取替申スヘクトテ健彦愛之同道ニテ罷來リ候得共曩ニ申述スル如ク無形ノ「ニ付一時返答ニ困リ不取敢孝太郎方ニ到リ問合ハスヘクト申偽リ車ニテ自宅立出テ暫時市街徘徊シ立戻リ候處兩名共扣居リシニ付孝太郎方ヘ立越候處本日ハ差閊アルヲ以テ來ル十八日種崎町住江

戸庄ト唱ヘシ料理屋ニ於テ自分同道ニテ一切受ケ渡シナスヘク又賣渡証ヘ幸太郎印形相受タリト偽言ヲ以相話シ候處兩名共其場立歸リ否ヤ夕方兩名立戻リ健彦ヨリ是非共金五拾圓ヲ手付トシテ可相渡趣ニ付得タリト相諾シ自分愛之連署ノ上（詐偽ノ事ハ愛之ヘ未タ明サス）受取リ其時田地賣渡仮証即幸太郎名下ヘ窃ニ有合ノ印ヲ押捺シ愛之ヲ經テ健彦ヘ相渡シ明治十二年十月十七日ニ至リ愛之健彦等偽謀ノ廉覺知セシト見ヘ嚴シク謀計ノ義責問ニ及ハルヽト雖何分ノ申開キ無之ヨリ兩名ノ際ヲ窺ヒ宿許立逃ケ潮江村鎮座山神社内ヘ潜伏致シ居リ候得共空腹ニナリタルヨリ不得止一時立歸リ候處宿症ヲ再發シ養生相加候中漸々輕快ヲ覺ユルヨリ父守衛ニ委細承リ候ヘハ右五拾圓ハ早速健彦ヘ差返シ候趣然ルニ今般御召喚ノ上右詐偽逋逃ノ所業御取調ヲ蒙リ恐入候事

明治十三年四月六日追供

本文深瀬孝太郎名下ヘ押捺セシ印形ハ頃日詮議致候得共紛失致候
哉相見ヘ不申候事

自分儀濱口愛之藤芽健彦ヲ欺キ深瀬孝太郎ノ賣地証書ヲ詐爲シ金
五拾圓欺取リ發覺ノ際逃走シ右金ハ其儘所持罷在リ一旦歸宅候處
直チニ召捕ラレ右金ハ父守衛ヨリ健彦ヘ返シタル儀相違之ナシ尤
モ明治十二年十月十九日召捕ラレタル際突然病氣差起リ本年三月
ニ到リ初メテ少ク平癒ニ赴キ御調ヲ受ケ候事

然レ𪜈自分ニ於テハ十二年十月十九日御召捕ノ事ハ病氣差重リタ
ルカ爲メ覺知仕ラス故ニ父守衛ヘ責付セラレシヿモ承知致サス本
年三月十日ニ到リ前條ノ始末自分ヨリ申出テシニ付全ク自首ニ相
成ル義ト相考ヘ候事

自分前科御處刑ノ節ハ竹内家ヘ養子ニ縁付居タル處禁獄中離縁セ
シニ付只今ハ實家ノ姓ニ復シ候事

明治十三年四月八日高知裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

右詐取金五拾圓ニ相成リ候事

右ノ口供ニ依リ明治十三年四月十日高知裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申
渡シタリ

其方儀去ル明治十二年二月五日鬪毆ノ罪ニ依リ禁獄七年ニ處セラ
レ限内ニ在テ病ニ罹リ加養ノ爲父守衛ニ責付中明治十二年十月十
六日同郡本町寄留士族藤芽健彦等ニ接見シ或ハ同人等ヲ欺キ地所
賣買ノ周旋ヲナサント人力車ニ乘リ市街ヲ徘徊セシ罪ハ改定律例
第三百七條凡禁獄限内外人ニ接見通信シ若クハ疾病療養等ニ託シ
潛出行歩スル者ハ原限ノ年日ニ照ラシテ新ニ之レヲ科ストアルニ

照シ新ニ禁獄七年ニ處スヘキモノトス又ハ同郡江ノ口村士族深瀬孝太郎ノ所有地ヲ賣却スルニ付其周旋ヲナサント右健彦等ヲ欺キ地所賣渡シノ手付トシテ金五拾圓ヲ詐取セシ罪ハ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ルモノハ並ニ賍ニ計ヘ窃盜ニ準シテ論ストアルニ依リ窃盜ニ準シテ論シ改正七賍例圖窃盜五拾圓以上懲役一年ニ處ス可キモノトス又ハ前書孝太郎カ名面ニテ地所永代賣渡証ヲ詐爲セシ罪ハ改定律例第二百四十六條凡私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ依リ雜犯律不應爲條不應爲輕ニ問ヒ懲役三十日ニ處スヘキモノトス右三罪ノ内禁獄七年ノ罪ハ原限ノ年日ニ照ラシテ更科ス可キモノニ付他ノ二罪ト共ニ數罪俱發ノ例ニ依リ論シ改定律例第七十五條凡華士族破廉耻甚ノ懲役百日以下ヲ犯シ又閏刑ノ禁錮一年以上ヲ犯シ二罪俱

發スレハ一ノ破廉耻甚ヲ以テ重トナシテ論ストアルニ照ラシ禁獄七年ノ罪及ヒ三十日ニ該ル罪ヨリ破廉耻甚ヲ以テ論ス可キ懲役一年ノ罪ヲ重トナシ一ノ詐欺取財條ニ依リ窃盜ニ準シテ論シ懲役一年ニ該ル所士族ナルヲ以テ改正改定律例第十三條凡華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ルヿ甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フトアルニ照ラシ除族ノ上懲役一年ニ處ス可キノ處禁獄限内ニ在テ病ニ係リ加養ノ爲メ責付中詐欺取財ノ罪ヲ犯シ捕獲セラレントシテ逃走セシニ付右禁獄ノ罪ハ更科ス可キモノナルヲ以テ未決ノ囚責付内逃走スルモノニ準照シ改定律例第二百九十七條凡犯人責付内ニ逃走スル者ハ本罪ニ一等ヲ加フトアルニ照シ本刑懲役一年ニ一等ヲ加ヘ懲役二年半ニ處ス

高知縣五等警部田健次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三

年四月二十日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事ヨリ明治十三年六月一日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

高知縣士族宮井鐘次郎禁獄七年刑限內病ニ罹リ親族ノ願ヲ允シ自宅ニ在テ療養中詐欺取財贓金五拾圓以上ノ罪ヲ犯スニ依リ禁獄七年滿期ノ上除族懲役一年ノ見込ヲ以テ高知裁判所ヘ求刑及ヒタル處同裁判所ニ於テ除族ノ上懲役一年半ノ刑ヲ宣告セシニ付其處斷ヲ不法ト認メ上告ノ趣意左ニ上陳セン

高知裁判所ハ其判文首項ニ於テ禁獄七年刑限內病ニ罹リ父守衛ヘ責付中佗人ニ接見シ市街ヲ徘徊セシ罪ハ改定律例第三百七條禁獄限內外人ニ接見通信シ若クハ疾病療養等ニ託シテ潛出行步スル者ハ原限ノ年日ニ照ラシテ新タニ之ヲ科ストアルニ依リ新ニ禁獄七年ニ處スヘキ者ト判決セリト雖モ元來改定律例第三百七條タルヤ

自宅禁錮ニ適スヘキ法律ニシテ禁錮ヲ禁獄ニ改メラレ其犯人ハ之ヲ囚獄ニ監禁スルノ制度ニ在テハ囚獄內ヨリ逃走潛出スル者ヲ本條ニ擬問スル歟若クハ特別ノ理由アリテ自宅禁獄ニ處シタル者ヲ除クノ外又該例ニ適當スヘキ犯人ヲ生スヘキ理由ナシ然リ而シテ本犯ノ如キハ禁獄限內ニ係ルト雖モ病痾ノ爲メ親族ノ請願ニ依リ自宅療養ヲ允可セシ者ニシテ其在宅日數ハ決シテ之ヲ刑期內ニ算入セス快癒入獄ノ上ハ更ニ其曠過日數ヲ償ハスヘキ者ナレハ假令外人ニ接シ若クハ潛出行步ヲ爲スモ之ヲ覺擧スレハ直チニ入獄セシムルノ處分ヲ爲スニ止マリ其潛出行步ヲ以テ往時自宅禁錮ノ刑期內ニアル潛出行步ト同視シ新タニ原限ヲ科スヘキノ筋ニ非ス是裁判不法ノ一也

其判文中項ニ於テ詐欺取財贓金五拾圓以上ノ罪ハ懲役一年ニ處ス

ヘク詐爲私文書ノ罪ハ懲役三十日ニ處スヘク禁獄七年ノ罪ハ原限ノ年日ニ照シ更科スヘキ者ニ付佗ノ二罪ト二罪俱發ノ例ニ依リテ論シ改定律例第七十五條ニ照シ禁獄七年及ヒ三十日ニ該ル罪ヨリ破廉耻甚ナ以テ論スヘキ詐欺取財懲役一年ノ罪ヲ重シトシ改正改定律例第十三條ニ依リ除族ノ上懲役一年ニ處スヘキ者ト判決セリ是失當ノ甚シキ者ト言ハサルヘカラス夫レ本犯ノ禁獄限内潛出行歩ヲ以テ論スヘキ者ニ非サルハ第一項ニ陳辨スル所ノ如クナルナ以テ彼ノ既決ノ禁獄ヲ以テ此ノ未決ノ詐取財ノ刑ト二罪俱發ノ例ニ依ルヘカラサルハ論ナ俟タスト雖モ今假ニ一歩ナ讓リ彼ノ禁獄人在宅療養中潛出歩行シタルノ所爲ナ以テ高知裁判所ノ意見ノ如ク改定律例第三百七條ニ擬シ原限ナ更科スヘキ者ト假想セシムルモ又決シテ其更科ノ刑ナ以テ未決ノ罪トシテ後ノ犯罪ト二罪俱發

ナ以テ論スヘキ筋ニ非ス何トナレハ禁獄七年トハ既決ノ刑名ナリ未決ノ罪名ニ非ラサルナリ禁獄潛出ノ罪ハ原限年數ニ照シ新タニ刑期ナ科スルニ止マリ其原限タルヤ則既決ノ刑タルヿ改定律例第三百七條末項外ニ投宿シ及ヒ縱飲スル者ニ科スルニ禁獄七十日贖罪スルヿナ聽シ仍ホ新タニ原限ヲ科ストアリテ決シテ此後犯タル禁獄七十日贖罪ノ罪ト原限タル禁獄ノ刑トヲ以テ二罪俱發ノ例ニ依ラサルヲ見レハ法理ノ存スル所灼然疑フ可キナシ今又試ニ一例ナ擧ケ尙ホ法理ノ在ル所ナ辨センニ禁獄刑限内ノ者潛出行歩ノ罪ニ依リ新タニ原限ヲ科セラルヽニ當リ檢事若クハ本犯ニ於テ其裁判ニ對シ其新ニ科セラレタル點ニ就キ上告スルナ得ヘキハ至當ナレ𪜈既ニ數年月前ニ確定シタル原刑ノ本罪上ニ就キ上告スルナ得ルトスル歟若シ原刑本罪上ニ就テ上告シ得ヘキ者トセハ獨リ禁獄

囚ノミナラス懲役囚ニ於テモ同一ニシテ刑原處斷ノ時ニ於テ其上告權ヲ拋棄シ自カラ裁判ノ確定ヲ甘認シナカラ數年月ノ後新ニ罪ヲ犯シタルカ爲メ其原刑本罪ノ不當ヲ鳴シ上告ヲ爲スニ到ラン斯ノ如クナレハ裁判確定ノ効ハ何レノ所ニカ存スヘキ乎是レ決シテ法理ノ容サヽル處ニシテ其原刑既決確定ノ効ハ後ノ犯罪ノ爲メニ消滅セス原刑ハ決シテ未決罪視スヘカラサルノ理歟トシテ火ヲ睹ルカ如シ然ルニ高知裁判所ニ於テ之ヲ二罪俱發ノ例ニ照シ判決シタルハ是處斷不法ノ二也

高知裁判所ハ其判文末項ニ於テ禁獄限内病ニ罹リ加養ノ爲メ責付中罪ヲ犯シテ逃走スルニ付右禁獄ハ更科スヘキ者ナルヲ以テ未決ノ囚責付内逃走セシ者ニ照シ本罪ニ一等ヲ加ヘ除族ノ上懲役一年半ニ處シタリ是又不當ト云ハサルヘカラス抑該犯タルヤ禁獄中病

ニ罹リ親族ノ願ニ依リ自宅療養ヲ允可シタル者ナレハ細カニ其在宅スル所以ノ性質ヲ説明セハ寧ロ自宅禁獄ノ質ニ近キ者ト認メラルヽモ決シテ後ノ未決犯罪ノ爲メニ責付シタル者ト認ムヘカラス故ニ若シ其逃走ノ罪ヲ治セハ寧ロ禁獄限内罪ヲ犯シテ逃走スル者ヲ以テ論シ禁獄限内逃走ノ罪ハ改定律例第三百七條ノ外律ニ正條ナキヲ以テ該條ニ比擬シ新タニ原限ヲ科スル方稍穩當ニ似タリト雖トモ本犯ニ於テハ新タニ原限ヲ科スヘカラサルノ理由第一項ニ辨論セシ處ノ如クナルヲ以テ右詐欺ノ犯罪ハ單ニ禁獄限内ノ犯罪ヲ以テ論スヘキ筋合ニシテ決シテ未決ノ囚責付内逃走セシ者ヲ以テ論シ其後犯ノ罪ニ加等スヘキ理由ナシ然ルニ高知裁判所ニ於テ改定律例第二百九十七條ニ照シ本罪ニ一等ヲ加ヘ除族ノ上懲役一年半ニ處シタルハ是處斷不法ノ三也

大審院ニ於テ裁判スルヿ左ノ如シ

辨明

被告人宮井鐘次郎ニ於テ明治十二年二月五日鬪毆ノ罪ニ依リ禁獄七年ノ處刑ヲ受ケ右限内病ニ罹ルヲ以テ父守衛ニ責付中明治十二年十月十六日藤芽健彦等ニ接見シ及ヒ健彦等ヲ欺キ地所賣買ノ周旋ヲナサント市街ヲ徘徊シ後チニ逃走セシ犯跡ハ鐘次郎カ病故ヲ以テ父守衛ニ責付セラレタリト雖モ禁獄刑期中ニ潛出シ逃走セシヿナレハ之ヲ不問ニ措クヿヲ得ス因テ改定律例第三百七條凡禁獄限内外人ニ接見通信シ若クハ疾病療養等ニ託シテ潛出行歩スル者ハ云々若シ潛出シテ他ニ投宿シ及ヒ縱飲スル等ニ係レハ懲役七十日贖罪スルヿヲ聽シ仍ホ新ニ原限ヲ科ストアルニ比擬シ懲役七十日贖罪ヲ聽シ新ニ禁獄七年ニ處スヘキモノトス又鐘次郎カ深瀬孝

太郎ノ所有地賣却ノ事ニ付其周旋ヲナサント即チ右健彦等ヲ欺キ手付トシテ金五拾圓ヲ詐取セシ罪ハ賊盜律詐欺取財條凡官私ヲ詐欺シテ財物ヲ取ルモノハ幷ニ贓ニ計ヘ窃盜ニ準シテ論ストアルニ依リ贓金五拾圓以上懲役一年ニ處スヘキモノトス又鐘次郎カ右孝太郎ノ田地賣渡假証書ヲ詐爲シ孝太郎ノ名下ヘ有合ノ印ヲ押捺シ即チ其証書ヲ健彦ヘ渡シタル罪ハ改定律例第二百四十六條凡私ノ文書ヲ詐爲スル者ハ情ヲ量リ不應爲ニ問ヒ輕重ヲ分ツトアルニ依リ雜犯律不應爲條不應爲輕キニ問ヒ懲役三十日ニ處スヘキモノトス

鐘次郎ニ於テハ已ニ禁獄限内右ノ數罪ヲ犯セシ内詐欺ノ罪ハ改定律例第十三條凡華士族罪ヲ犯ス者ハ禁獄ニ處ス若シ姦盜等ノ罪ヲ犯シ廉耻ヲ破ルヿ甚シキ者ハ除族シテ本刑ヲ加フトアルヲ以テ士

族ナルニ付除族ノ上懲役一年ニ處シ禁獄限内酒出シテ他ニ投宿シタルニ付懲役七十日ノ贖罪ト私ノ文書ヲ詐爲セシ罪懲役三十日トハ名例律二罪俱發以重論條ニ依リ輕キカ故ニ論セサルモノトス

又鐘次郎カ禁獄限内父守衛ニ責付中酒出シ他ニ投宿シタルニ付新ニ禁獄七年ノ原限ヲ科スルハ詐欺ノ罪除族ノ上懲役一年ニ處セシ後ニ之ヲ科スヘキモノトス其原限ヲ科スルノ罪ト詐欺ノ罪トハ二罪俱發ヲ以テ論スヘキモノニアラサルナリ何トナレハ先キノ禁獄七年ハ已ニ明治十二年二月五日ニ斷決ヲ經タル刑ニシテ後ノ詐欺罪ハ其所犯ヲ經タル後ニ犯シタル罪ナレハナリ然ルヲ高知裁判所ニ於テ二罪俱發ヲ以テ論シ改定律例第七十五條凡華士族破廉耻甚ノ懲役百日ヲ以下ヲ犯シ又閏刑ノ禁獄一年以上ヲ犯シ二罪俱發スレハ一ノ破廉耻甚ヲ以テ重トナシテ論ストアルニ照シ其健彦ヨリ詐

取シタル賍金五拾圓以上即チ懲役一年ノ罪ヲ重トナシ仍ホ改定律例第二百九十七條凡ソ犯人責付内ニ逃走スル者ハ本罪ニ一等ヲ加フトアルニ照シ本刑懲役一年ニ一等ヲ加ヘ懲役一年半ニ處斷シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年四月十日高知裁判所ニ於テ宮井鐘次郎ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

宮井鐘次郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ賊盜律詐欺取財條及ヒ改定律例第十三條ニ照シ

除族ノ上

懲役一年

役訖テ禁獄七年新ニ之ヲ科ス

第四百六十六号

○判文（闘毆ノ件）明治十三年六月四日上告
明治十三年八月廿六日判決

福岡縣筑前國穗波郡飯塚村平民當時同國嘉麻郡飯田村酒造渡世松隈善三郎方雇人　野田嘉右衛門　明治十三年五月三十二年九ヶ月

同縣同國嘉麻郡飯田村平民當時同村酒造渡世松隈善三郎方雇人　梅野又三郎　明治十三年五月二十六年

右嘉右衛門外一名カ明治十三年五月二十日福岡縣警察署ニ於テ審問ヲ受ケタル口供左ノ如シ

一自分共儀明治十三年五月十二日午后七時頃雇主善三郎他出中ニ付留守受持チ嘉右衛門儀店場ニ出居ル處其時不知嘉麻郡上臼井村山根牢四郎ナル者酒飲ミニ來リ臺所上リ口板張ニ腰打掛ケ升ニ盛タル冷酒ヲ飲ミ居リ追々酩酊ノ上臺所ト店場ヲ建テ切リタル透戸ニ寄リナカラ錢箱ニ打掛リ土足ヲ疊ノ上ニ揚ケ彼是雜言申居リ牢四郎義ハ舊穢多ノ身分ニテ他ノモノヨリ謙遜スヘキニ却テ土足ヲ疊ニ揚ケ不禮ナル儀ト存シ土足ヲ庭ニ卸ロセト嘉右衛門ヨリ制止致シタレトモ不聞入ニ付舊穢多ハ臺所ニ揚リ居テハ外見モ如何敷ニ

付嘉右衛門儀半四郎ノ肩ヲ捕ヘ庭ニ引卸ロシ戸外ニ突出シタルニ半四郎ニ於テモ不禮ナル儀相氣付キタルカシテ甚タ惡ウ御座ツタト謝スルニ付以後右樣ノ義致ス間敷段申聞ケ自分共夕飯ヲ喫食シ了リタルヰ半四郎義再度戻リ來リ前ニ嘉右衛門ヨリ戸外突キ出サレシヲ遺恨ニ存シタルカ善三郎方店前ニテ種々惡口雜言ヲナシ己レ其分ニハ差置モノカ今夜中ニ飯田村ヲ黑土ニナシテ此ノ恨ミヲ晴サント飯田村中ヲ怒鳴リ歩行キ半四郎義ハ兼テ惡モノニテ如何ナルコトヲ仕出スヤモ難量トテ隣家ノモノ共半四郎ノ惡口ニ恐怖致シ居ルニ付万一放火等ヲ致サレテハ實ニ容易ナラサル義ニ付取押ヘ置キ大隈分署ヘ申出ントト嘉右衛門發意致シ又三郎モ同意ニテ嘉右衛門ハ藁縄ヲ携ヘ半四郎ノ後追ヒ行キ村外レニテ見當リ取押ヘントスルニ半四郎ヨリ取押ヘラルヘキヿ無シト申ヲ嘉右衛門ハ拳

ヲ以テ半四郎ノ面部ヲ毆チ又三郎モ拳ニテ同人ノ背肩ヲ毆打シ兩人シテ地上ニ引キ倒シ藁縄ヲ以テ遂ニ半四郎ヲ縛シ而シテ取押ヘ置キ大隈分署ヘ申出ルヨリ半四郎ヲ引連レ同人ノ惡口セシ次第ヲ申出ントト提灯ヲ取リニ歸ル間村外ノ橋杭ニ縛シ付ケ善三郎方ヘ歸ル途中野見山利平丈丸市藏ノ兩名自分共ノ半四郎ヲ捕ヘシ噂ヲ聞キ見物ニ來リタルニ出逢ヒ同人共ヘ提灯ヲ持チ來リ呉ヨト相頼ミ提灯持チ來リタルニ付自分共ト都合四名ニシ半四郎ヲ引連レ大隈分署ヘ出頭シ半四郎ハ容易ナラサル雜言ヲ申觸レ村中甚タ不安ノ思ヒヲナス段口上ヲ以テ申出タル處半四郎義自分共ヨリ打擲サレタルト申立タルヨリ半四郎ヲ毆打セシ始末取調ヲ受ケ利平市藏俱々飯塚警察署ヘ拘引ノ上前條ノ次第取調ヲ受ケ半四郎ノ身分四ケ所摺リ疵有之段承知致シ右ハ自分共半四郎ヲ引倒シタルヰ爲シタ

ル疵ナランヿ存シタリ

右ノ口供ニ依リ明治十三年五月二十五日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方共儀嘉麻郡飯田村酒造渡世松隈善三郎方ニ雇ハレ中本年五月十二日舊穢多ナル山根半四郎ナル者飲酒ニ參リ酩酊ノ上店場ニ於テ無禮ノ振舞ヲ爲スヲ制止シ戸外ヘ突出シタルニ半四郎一旦立去リシ後再ヒ入リ來リ種々惡言シ飯田村ヲ黑土ニセント云ヒ村中ヲ怒鳴リ行キ萬一放火テモ致シテハ容易ナラス依テ警察分署ヘ屆出ソトテ跡ヲ追ヒ半四郎ヲ取押ヘ手ヲ以テ面部又ハ肩背ヲ毆チ地上ニ引倒シ傷ヲ成スノミナラス藁繩ヲ以テ縛シ橋杭ニ縛シ付ル等二罪俱發例條ニ照シ一ノ重キ繩ヲ以テ縛スル科鬪毆律威力制縛條ニ依リ懲役一百日ノ處情ヲ量リ本罪ニ三等ヲ減シ各懲役七十日宛申

付ル

福岡縣七等警部藤本重威ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月四日司法卿ヲ經由シテ大審院檢事ヨリ送付シタル上告狀左ノ如シ

右ノ者共犯罪アリ長崎裁判所福岡支廳ノ公判ヲ求メシニ同廳ニ於テ該犯ノ罪ヲ斷スルニ鬪毆律威力制縛條ニ依リ懲役一百日ヨリ三等ヲ減シ各懲役七十日ノ刑ヲ與ヘタリ抑モ該犯ノ所爲タル家主ノ家宅内ニ於テ被害者山根半四郎ナル者酒興ニ乘シ粗暴ノ所業アルヨリ再應制止スレヒ聞入レス依テ之ヲ戸外ニ引出シ一旦事濟タル後半四郎再ヒ立戻リ店前ニ於テ種々罵詈スルノミナラス今夜中ニ當村ヲ焦土ニス可シナト容易カラサル言ヲ發シ爲ニ闔村ノ人心ヲシテ恟々ナラシムルニ至リ且ツ半四郎ハ平素不良人ノ聞ヘアルモ

ノナレハ果シテ同人カ言ノ如ク放火等ヲ爲シテハ村中ノ災害ナリト思量スルヨリ警察分署ニ連レ行ントスルモ彼强惡ナルヲ以テ輙ク誘ハレス遂ニ藁繩ヲ以テ縛シタルモ其實ハ半四郎カ誘引ヲ拒ムヨヘ逃走スルノ恐レアルヨリ事止ムヲ得スシテ之ニ繩ヲ施セシモノニシテ素ヨリ威力ヲ擅ニシテ人ヲ制縛セシモノト其所爲固ヨリ同日ノ論ニ非ストス故ニ其罪宜ク鬬毆律鬬毆條手足ヲ以テ人ヲ毆チ傷チ成ス者ヲ以テ論シ懲役三十日ニ處斷スヘキヲ長崎裁判所福岡支廳ニ於テハ之ヲ威力制縛條ニ依リ處分シタルハ所謂裁判ノ當ヲ失スルモノト考量ス仍テ關係書類相添及上告候也

辨明

野田嘉右衛門梅野又三郎カ山根半四郎ヲ藁繩ニテ縛シタルモ其實半四郎カ誘引ヲ拒ムヨヘ逃走スルノ恐レアルヨリ事止ムヲ得スシ

テ之ニ繩ヲ施セシモノニシテ素ヨリ威力ヲ擅ニシテ人ヲ制縛セシニ非ス然ルニ威力制縛條ニ依リ處分シタルハ不法ナリトノ上告ニ因リ前ニ掲クル嘉右衛門又三郎ノ口供ヲ審按スルニ半四郎カ飲酒酩酊ノ末善三郎店前ニテ今夜中ニ飯田村ヲ黑土ニナシテ恨ミヲ晴サン抔ト暴言ヲ吐クヨ近隣ノ者共モ恐怖シ万一放火等致サレテハ容易ナラサル儀ニ付取押ヘ置キ大隈分署ヘ申出ントノ嘉右衛門ノ發意ニ又三郎同意シ嘉右衛門藁繩ヲ携ヘ半四郎ノ後追行云々トアリテ半四郎カ嘉右衛門等ニ對シ未タ腕力又ハ兇器等ヲ持拒クヘカラサルノ暴動ヲ爲シタルヨ非ス唯暴言罵詈スルノミナルヨ取押ントノ藁繩ヲ携出ルハ直ニ捕縛セントノ意匠ナルヿハ已ニ此場合ニ於テ著明ナリ又村外レヨリ半四郎ニ出會取押ヘントスルニ同人ニ於テハ取押ヘラルヘキヿナシト言タル迄ニテ此場合ニ於テモ毫モ暴行ヲ

加ヘタルニモ非サルニ嘉右衛門等ニ於テハ半四郎ノ面部又ハ背肩等ヲ毆打地上ニ引倒シ藁縄ヲ以テ縛シ加之一時橋杭ニ縛シ付置タルハ自己ノ身体等ヲ防衛スルノ所爲ニ出テタルニ非サルナリ左スレハ嘉右衛門又三郎カ罪ハ鬪毆律威力制縛條凡威力ヲ以テ人ヲ制縛シ及ヒ云々スル者ハ有傷無傷ヲ問ハス幷ニ杖一百トアルニ擬シ處斷スヘキモノナルカ故ニ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ同條ニ依リ其情狀ヲ酌減シ處決シタルハ適當ナリト雖モ又三郎ハ嘉右衛門ノ從ヲ以テ論スヘキヲ主從ヲ分タス等シク處斷シタルハ不當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年五月二十五日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ野田嘉右衛門ニ言渡シタル裁判ハ破毀ノ限ニ非スト雖モ梅野又三郎ニ言渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

梅野又三郎

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ鬪毆律威力制縛條ニ照シ懲役百日從タルニ付一等ヲ減シ同九十日ノ處尙三等ヲ酌減シ

懲役六十日

第四百六十七號

○判文(窃盗ノ件)明治十三年五月八日上告
明治十三年八月廿七日判決

堺縣大和國吉野郡新住村四拾壹番地平民船渡平藏厄介

船渡多平

明治十三年三月
三十五年六ヶ月

右多平カ明治十三年三月二十五日及ヒ明治十三年三月九日大阪裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

一自分儀明治十二年十一月日不覺以來兼テ懇意ニセシ堺縣下大和國廣瀨郡百濟村米田與三郎發意ニ從ヒ同縣下葛下郡今泉村路傍ニ於テ其節郡村姓名不知植田庄平ナル者手車ニ積置有之筵包土佐清長紙貳丸盜取幷ニ同縣下式下郡法貴寺村上田清次郎外壹ケ所ヘ忍入盜業爲シタル段明治十三年一月八日大阪府長堀橋筋警察署ニ於テ供述仕尚又明治十三年一月十三日同府警察本署ニ於テ御取調ノ際前口供ノ通相違無之旨申上置候ヘトモ其實盜業爲シタル儀ハ無之向キニ長堀橋筋警察署ニ於テ嚴重ノ御取調ヲ受ケ身体堪ヘ難キヨリ供述仕候義ニテ全クハ明治十三年二月二十三日大阪裁判所檢事局ニ於テ申上候通只荷物運搬方ニ雇ハレ賃錢申受ケタル儀ニテ決テ盜業爲シタル事無之候事

一自分儀犯罪ノ始末向キニ警察署ニ於テ供述仕ル儀ハ全ク御取調嚴敷有之ヲ以テ無實ノ事ヲ申上候義ニテ全クハ檢事局ニ於テ供述仕候通相違無之候事

明治十三年三月九日

明治十三年一月八日大阪府長堀警察署及明治十三年一月十三日大阪府警察本署ニ於テ吟味ヲ受ケシ口供左ノ如シ

一自分儀曩ニ御處刑ヲ受タル身分ヲモ不憚明治十二年十一月日不覺大阪府下南區下大和橋南詰姓名不知煮賣店ニテ喫食ノ際曾テ顏馴染タル堺縣下大和國廣瀨郡百濟村平民米田與三郎ニ出會雜談ノ末盜賊可相働旨與三郎ノ勸メニ應シ堺縣下大和ニ向ヒ明治十二年

十一月日不覺午后一時頃前陳與三郎俱々堺縣下大和國上牧村西北ニ當ル山手ノ村中路傍ノ明地ヘ手車ニ積差置有之莚包大半紙貳包盜取其贓品所持致シ同犯與三郎俱々大坂府下南區瓦屋町五番町三十五番地寄留古手商藤村民藏宅ヘ持込同方ヘ一時該贓品預ケ置而シテ同犯米田與三郎ナル者右贓品半紙貳包何方ヘカ賣拂ヒタル由ヲ以テ私ヘ分與トシテ金壹圓差遣シ候ニ付貰受其金飲食ニ費用致候事

一明治十二年十二月日不覺午前二時頃同犯米田與三郎ノ勸メニヨリ堺縣下大和國俵本ヨリ貳拾町斗東ニ當ル字法華ト唱フル處ハ姓名不知方土藏ノ窓ヲ庖丁ニテ切破リ入衣類八拾六点斗盜取該贓品ヲ呑負同犯米田與三郎宅ヘ持歸ラント欲シ凡貳拾町斗持來ル途中字八尾墓原ニテ休足致居候處往來人ニ何者ナル柔ト聲掛ラレ一時

驚愕ノ余リ自分携居候贓品打捨逃走同犯米田與三郎宅ヘ右窺ヒ候處同人歸宿不致ニ付該家立出同日午後六時頃同犯米田與三郎宅ヘ參リ同人面會ノ上相談ヲ遂ケ同犯米田與三郎持歸リタル贓品其内衣類三拾点斗同犯米田與三郎宅ヘ殘シ置其余五拾六點同犯與三郎俱々大阪府下ニ持來リ前陳古手商藤村民藏ナル者ヘ同犯米田與三郎ヲシテ賣拂内金貳圓私ヘ分與致シ呉其金圓飲食料ニ費用致然ルニ賣渡候節盜情ヲ明シタルヤ否哉其他賣渡金高等ハ存不申候事

一明治十二年十二月二十六日前陳米田與三郎俱々堺縣下大和國俵本ヨリ凡拾四五町北方ニ當ル村名不知村西北端姓名知ラサル農家ノ土藏窓ヲ出刀庖丁ニテ切破リ衣類九拾三點斗盜取該贓品同犯米田與三郎宅ヘ持來其内凡貳拾五點斗則チ與三郎ノ意志ニヨリ與三郎宅ヘ殘置其余衣類六拾八點米田與三郎自分モ人力車ニ乘シ大阪

府下ヘ來ル途中ヨリ自分義ハ同犯米田與三郎ヨリ先タチ前陳藤村民藏方ヘ罷越同犯米田與三郎ノ來ルヲ待チ其際入浴ニ參リ立歸リ候處明治十二年十二月二十七日午後六時頃突然藤村民藏方ニテ御召捕ノ節逃走ノ念慮有之ヨリ御巡査ニ抗抵致ス而已ナラス拾町斗逃走スル處終ニ捕ヘラレ御拘引ノ上御調ヲ受候事

明治十三年一月八日

前書長堀橋筋警察署ニ於テ中立ノ通相違無之候事

明治十三年一月十三日

明治十三年四月三十日大坂裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀先キニ警察署ニ於テ爲シタル口供ヲ反翼シ明治十二年八月三十日以來米田與三郎ヨリ賴マレ物品運搬ヲ爲シ賃錢申受ケタル迄ニテ與三郎俱々盜業爲シタル事無之段申立ルト雖モ與三郎カ口

供ニ其方ヲ從ヘ盜業爲サヽル旨檢事局ニ於テ供述爲スモ全ク共犯者タル旨申立尙相當官吏カ取調書並ニ與三郎妻「カメ」カ手續書ニ依ルモ先キニ警察署ニ於テ爲シタル口供ハ眞實ノ白狀ナリト信認シ其贓金四百九拾貳圓七拾九錢ノ科窃盜律ニ依リ懲役終身從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役十年申付ル

船渡多平ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年五月八日大審院ニ差出シタル上告狀及明治十三年七月差出シタル上告追願書左ノ如シ

一私シ去ル明治十二年十二月廿七日前ニ米田與三郎ニ賴マレ賃金ノタメニ被雇不正ノ情全ク不知候處其後府下警察署ヘ御拘引ニ相成則チ與三郎ノ連累ト被看做御尋問有之候處前書ノ如ク賃金ニテ被雇候義申上候得共何ナク御吟味强候故御尋問ノ儀ニ隨ヒ其後御

本署ヘ送ト相成御調ノ際ニ至リ前書ノ實際申上候ニ者先キノ口供眞實爲タルヲ確証トテ可申上義不相立後撿事御局ヘ引送ニ成御取調ヲ受飽迄情不知拇印仕同局ニテ再調ト相成カンコウ被仰付再拇印ノ義讀聞セナク豈計ンヤ拇印仕其後刑事課ヘ者爲運送之ニ〔原ノマヽ〕金三圓申受ル者〔原ノマヽ〕與三郎不正ノ情不知之拇印致來ル處宣告ト相成御裁決ニハ米田與三郎妻「カメ」ノ手續書トニ依ルトハ我等夫ヲ爲分ルト看做シ警察署口供「カメ」ノ手續書トニ依ル者賍金四百餘圓科之御裁決ニ相成ハ全ク爲運送賃三圓申受候ニ四百九拾貳圓七拾九錢ノ律ニアテラレ候義ハ飽迄不服ニ付仍テ不法ノ御裁決ト心得尚宣告ノ後米田與三郎ニ於テハ爲我等カニ〔原ノマヽ〕其他難困サセル〔原ノマヽ〕然シ同道ニ上告仕リ實際ノ三圓ニテ雇入候義ナク迄運告〔原ノマヽ〕可致筈ノ處最我等者終身懲役被爲處候故一日相成共早ク御勤メ未之〔原ノマヽ〕

免役ヲ待ニ仍テ我等之ヲン心之異上告書ヘ認メ有之度ト申置キ候間何卒相當ノ御裁判被成下度此段奉上告候以上

上告追願書

一私シ儀本年四月三十日大阪裁判所於テ刑名宣告ト相成タルトモ私シ於テ無實ノ罪付同年五月八日奉上告候該始末柄手續書奉呈仕置キ候得共遺漏之廉々詳細左ニ然ル處私シ居所ヨリ郡山ヘ便ニ行處同國八尾村之墓北ニテ米田與三郎ニ出會元ト面ナシミテ双方ヨリカタリ會時者早朝之事則チ與三郎ヨリ私シヘ右物品ヲ運送ヲ成シ被呉度ト依賴セラレナニ心ナク爲賃金ノニ運送儀引請致シ運送ヲ仕ル後私シ御拘引ニ相成御取調ノ事先ニ警察署幷御本署ニ於テ米田與三郎ナル者ノ上伸仕ル儀且者妻「カメ」手續トヲ以私シヘ御壓制甚タ敷御尋問如何情實ヲ語ト雖モ御聞取モナク被壓其情狀之實

際ニ相違シ私シ上伸仕ルト雖モ更ニ御採用ニモ不相成元來與三郎
并「カメ」之僞心ヲ眞實ナリトテ上陳スルモ御信用難相成右其原因タ
リ哉元來與三郎申立ニ數品ヲ八尾村之墓ニテ捨置キ候ト上伸仕者
全ク是僞言也私シ八尾村之墓北ヨリ運送スルニ其該品與三郎居宅
迄運付其實際者妻「カメ」モ存シスナヅト雖モ全ク「カメ」存可居ソレニ
付只運送スル者ニ與三郎ト同決成哉連ルイナリト上陳スルモ愚心
成故與三郎被減度サニ上伸スル是私シ於テ者無實之强罪則チ連ル
メ成ル若數百物品ヲ以三圓之賃金トシテ者申受ン其分配ヲ受ル者
條理ナル事只三圓之賃金申受ル者全ク情不知ナル然シテ私シ御尋
問ノ次第者前顯如クニテ私シ情實モ不相立刑名宣告ト相成右御壓制
之御裁決ニ成故私シ共アク迄不服シショウシ尤先達テ堺縣ニテ一犯
被爲處候ニ依見込御裁判モ有之處乍恐私シ住所且亦同國葛下郡下

田村ニシハラク住居仕リ双方トモ篤ト御探索被成下先キニ一犯被
爲處候得共其後相愼居候間何卒右情實ヲ御聞取被下テ相當之御裁
決被成下度此段追書ヲ以奉上願候以上

大審院ニ於テ裁判スル事左ノ如シ

上告ノ主點

上告人船渡多平カ請求スル處左ノ如シ

米田與三郎ヨリ物品運搬ニ雇ハレ金三圓貰受ケタルノミナルニ賍
金四百圓餘ノ科ヲ以テ處斷セラレシハ不法ナリトノ事

辨明

船渡多平カ米田與三郎ヨリ物品運搬ニ雇ハレ金三圓貰受タルノミ
ナルニ賍金四百圓餘ノ科ヲ以テ處斷セラレシハ不法ナリト申立ル
處米田與三郎カ明治十三年一月八日大阪府長堀橋筋警察署ニ於テ

爲シタル口供ヲ閲スルニ「明治十二年十一月西田太七ニ出逢ヒ盗業相働クヘキ旨申勸メ太七俱々大和國上牧村山手ニテ筵包清長紙貳包盗取リ明治十二年十二月二十一日太七俱々大和國俵本ヨリ東ニ當ル村名不存處ニテ衣類等八拾六點計リ盗取リ明治十二年十二月二十七日太七俱々大和國俵本北手ニテ衣類九拾三點計盗取タル趣ニ供述シ八等警部荻原茂助カ明治十三年三月六日付書面ヲ閲スルニ「米田與三郎西田太七ノ兩名拘引致來候ニ付最初太七取調候處元來同人河内國高麗村ニ住居セシ時分與三郎トハ顔知合ナリシカ其後同所立退キ候後或日府下大和橋支度屋ニテ食事ノ際不斗同人ニ出會シ與三郎ノ發意ニ從ヒ盗賊相働キ候由申立候最初ハ河内國ニテ紙筵包貳タ丸盗取リ兩人ニテ府下ニ持參リ候上與三郎一人ニテ賣捌キ右ノ如キ品物ハ甚タ廉價ノ者故先是計リ相渡ストテ金壹圓

請取候其後農家ノ藏ニ忍ヒ入リ候節ハ兩人交ルニ出刄庖丁ニテ窓切リ破リタル段申出タリ其節盗取候衣類中幾分カ與三郎方ヘ殘シ置キ其余ハ兩人ニテ府下ニ持來リ是又與三郎一人ニテ賣拂候上今回ハ貳拾五圓ニ賣拂タレハ何レ折半ニ分配スヘキナレトモ不取敢相渡シ置クトノ事ニテ金貳圓請取其後此度モ前同樣ノ所業ニテ衣類盗取リ府下ニ持來候際御召捕相成候段申立タリ依テ與三郎ヲ訟庭ニ呼出シ寛言ヲ以テ誘問ノ所太七ノ申立ト符合シ全ク自分ノ發意ニテ前段ノ通盗賊相働キタル段申立其他ハ其節ノ口供面ノ通ニテ全ク太七ニ於テモ知情ノ事判然タリ然ルモ今更言ヲ左右ニ枉ケ彼是翻言スルハ穿偷ノ徒ノ情体ト奉察候也」右等ノ証憑ヲ多平カ明治十三年一月八日警察署ニ於テ爲シタル口供ニ參照スルニ大要同一ニシテ多平カ口供ノ眞實ノ白狀ナルハ論ヲ俟タス然レハ即チ其後

ニ至リ數回口供ヲ反覆スルモ別ニ其証ヲ擧ケサレハ辭ヲ左右ニ寄セ犯跡ヲ湮滅シ其罪ヲ逭レントスルニ外ナラスト左スレハ大阪裁判所ニ於テ多平カ罪ヲ斷スルニ贓金四百九拾貳圓七拾九錢ノ科銷盜律ニ依リ懲役終身從タルヲ以テ一等ヲ減シ懲役十年ト申渡タルハ不法ノ裁判ニアラストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年四月三十日大阪裁判所ニ於テ船渡多平ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スルモノナリ

第四百六十八號

○判文(詐欺取財ノ件)明治十三年六月一日上告
明治十三年八月二十七日判決

兵庫縣播磨國赤穗郡加里屋村平民　村田敬長　明治十三年五月二十九年

右敬長カ明治十三年五月十日外數次神戸裁判所姫路支廳ニ於テ審問ヲ受ケナシタル口供左ノ如シ

自分儀明治十一年三月頃同郡坂越村小川與平ナルモノ鍛冶源兵衛ノ地券証取之金六圓貸與ヘ居候處期限ニ至リ返弁不致ニ付小川與平ヨリ地券証ヲ自分ヘ預リ源兵衛ヘ督促中該品ヲ他人ヘ抵當ニ差入ルヿ自分ノ發言ニテ水守作太郎ト申合セ尤役場ノ印鑑無之テハ書入ルヿ不相成ヲ以テ該役場ノ印ヲ僞造スルヿハ作太郎ノ發言ニヨリ同人ヨリ何レカニテ役場ノ印ヲ僞造致サセ呉レ戸長岩崎常之助ノ實印ハ自分ノ印形ヲ相用ヒ長安清造外二人ヘ抵當ニ差入拾圓

ヲ借用シ其後証文ヲ書換ルトキ金五圓ヲ借増合シテ拾五圓借用致候事

明治十二年九月下旬頃作太郎ノ發意ニテ安田源兵衛方ニテ金借スルニ付テハ抵當品無之テハ借用不相成旨ニテ作太郎ノ發意ニテ地券証ヲ取持ユルヿ申合セ同人ヨリ何レカニテ印形等偽造致シ呉レ松尾嘉右衛門ノ地券証三枚ヲ取持ヘ作太郎ヨリ自宅ヘ持參致シ該地券証壹枚ヲ書入安田源兵衛取次ニテ金三拾圓ヲ借用シ内拾五圓ハ自分買用致シ戸長役場ノ印判ハ自分カ印形ノ雛形ヲ取之作太郎ヨリ何レカニテ偽造致シ呉レ戸長ノ印形ハ自分方有合セ印ヲ相用ヒ候事

殘ル二枚ハ何レヘモ差入不申是レ切破リ申候

明治十二年九月頃作太郎ノ發言ニテ松尾嘉右衛門ノ所有地ヲ書入

黒田鱗平方ニテ金拾圓ヲ借用シ役場ノ印ハ曩キニ偽造致候印ヲ相用ヒ戸長三宅新吉ノ印鑑ハ自分方有合セノ印ヲ相用ヒ候事

明治十二年十一月頃作太郎ノ發意ニテ松尾嘉右衛門ノ所有地ヲ書入小川傳次郎方ニテ金六拾圓ヲ借用シ然ルニ小川傳次郎方ニテ借用スルニ付テハ曩キニ偽造致シタル印鑑ニテハ借用不相成旨ニテ何レカニテ彫刻致シテハ可然ト作太郎申聞候ニ付該役場ノ印形ハ姫路ノ楳西ナルモノ彫刻致シタルニ付同人ヘ注文ヲ致スヘキ旨ニテ自分ヨリ楳西ノ所在ヲ相記シ作太郎ヨリ注文ヲ致サセ該印判ヲ相用ヒ戸長ノ印ハ有合セノ印ヲ相用ヒ申候

明治十二年十二月二十五日自分ノ發言ニテ松尾嘉右衛門ノ地所ヲ書入ルヿ作太郎ト申合セ睦谷彌八郎方ニテ金五圓ヲ借用シ役場ノ印ハ前顯楳西方ニテ彫刻サセタル印判ヲ相用ヒ戸長ノ印ハ自分方

有合セノ印ヲ相用候事　明治十三年五月十日

自分儀明治十三年一月作太郎ノ發言ニテ安田源兵衛取次ヲ以テ長安清造方ヘ松尾嘉右衛門所有地ヲ書入ル偽証書ヲ取拵ヘ金三十圓ヲ借用スル爲メ証文ヲ差入タル儀ハ作太郎ヨリ申上候通リ相違無之候事　明治十三年五月十一日

自分儀ハ作太郎ト申合セ黒田鱗平方ニテ貳拾圓ヲ借用スルヿ作太郎ヘ相任セ有之處同人ヨリ金拾圓ヲ受取候ニ付鱗平方ヘ借証書ヲ差入レタルヿト存シ居候處右ハ同人方ニテハ借用セス作太郎ヘ所持金ヲ拾圓相渡シタル事御吟味ノ上承之此外ニ睦谷彌八郎ヲ欺キ五圓ノ証書ヲ差入ル借用有之ヿト存シ居候該証文ヲ差入レスシテ作太郎一人ニテ詐爲シタル内ノ五圓ヲ自分ヘ相渡シ居リタルヿ今般初テ承知仕候事　明治十三年五月十一日

黒田鱗平方ニテ借証書ヲ差入金貳拾圓ヲ借用致シタルト作太郎申聞ケ自分ヘ金拾圓相渡シタルハ曩キニ同人ヨリ所持金ト申上候付テハ其段承知仕候處今般同人ヨリ所持金ニハ無之矢張偽証書ヲ差入詐爲ヲ爲シタル内ノ拾圓ナル旨尚又承知仕候事　明治十三年五月十八日

右ノ口供ニ依リ明治十二年五月二十四日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡タリ

其方儀明治十二年十一月以來同町水守作太郎ト交々首從トナリ小川與平ヨリ委托ヲ受クル鍛冶源兵衛所有ノ地券証ヲ同人負債主ノ証書ヲ詐爲シ戸長役場ノ印判ヲ偽造シ戸長等ノ印信ハ有合セノ印ヲ押捺シ長安清藏外貳名ヲ欺クノミナラス作太郎ノ發意ニテ書飾磨縣ノ印章並ニ地券証及ヒ松尾嘉右衛門ノ印信ヲ偽造シ同人等負債主ノ証書ヲ詐爲シ偽造ノ地券証ヲ抵當又ハ書入ニ爲シ小川傳次

郎等ヲ欺取賍金百貳拾圓右科ノ内一ノ重キ賊盜律詐欺取財條ニ依リ窃盜ニ準シテ論シ懲役十年首從ノ賍幷發スルヲ以テ例第七拾二條ニ照シ一等ヲ減シ懲役七年申付ル

但シ僞造スル印判等及ヒ詐爲ノ証書ハ取上ル

村田敬長於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年六月一日大審院ニ差出シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

村田敬長上陳ス抑水守作太郎ノ發意ニテ長安清藏外二名ニテ小川與平ヨリ委托ヲ受ケタル地券ヲ同人負債主ノ證書ヲ詐僞シ戸長役場ノ印判等ヲ僞造シ戸長印信ハ有合セノ印ヲ押捺シ長安清藏外二名ヲ欺キシハ明治十二年七月中ニシテ右三名等ヨリ金拾圓借請ケ又候同月中五圓追借シ合テ金拾五圓ヲ作太郎ノ取次ヲ以テ借用罷在候處御吟味ノ上作太郎ヨリ右三名ヘ金四拾圓ノ證書差入該金額

ヲ借用候樣承リ候得トモ自分ニ於テハ右拾五圓ノ其他更ニ不存候處右日限ノ儀御申渡ニハ十一月以來ト有之トモ自分ヘ借用セシ日限トハ大ニ相違有之候事

村田敬長上陳ス同年九月中同郡野中村大津佐七方ニテ作太郎發意ニテ松野嘉右衛門（宣告書ニ松尾嘉右衛門ト記載有之トモ松野嘉右衛門ニ有之候事）ノ所有地ヲ詐僞シテ書入トナシ金三拾圓ヲ借受ケ作太郎ト兩人ニテ拾五圓宛費用仕候事

村田敬長上陳ス同年十一月中同郡尾崎村黒田鱗平方ニテ右松野嘉右衛門ノ所有地ヲ詐僞シテ書入作太郎ノ取次ヲ以テ金拾圓自分一名ヘ借受ケ候心組ニテ拾圓ノ証書作太郎ヘ相渡シ該金額同人ヨリ請取同人ニ於テハ詐僞ノ証書承知ノ上右借用ノ日限已前ニ他借シタルヤ作太郎所有金ヲ自分ヘ貸與ヘ呉レ候事後ヲシテ相分リ因テ自

分ヨリ作太郎ヘ相渡シ置タル証書等ハ債主鱗平ヘモ相渡サス作太郎所持罷在ヲ直ニ御取上ケ相成候事

村田敬長上陳ス同年十二月中同郡同村小川傳次郎方ニテ右嘉右衛門ノ所有地ヲ詐偽シテ書入金六拾圓作太郎ト兩人ヘ借受ケ自分ヘ半額三拾圓ヲ作太郎ヨリ請取リ事實ト相心得居候處該金ノ義ハ第三條ノ通リ作太郎已前ニ他借セシヤ同人所有金ヲ自分ヘ貸與ヘ呉レ候事後チシテ相分リ因テ前同樣自分ヨリ相渡シ置タル證書等ハ債主傳次郎ヘモ不相渡作太郎所持罷在ヲ直ニ御取上ケ相成候事

村田敬長上陳ス同年同月中同郡中村睦谷彌八郎方ニテ第三條ノ通作太郎ノ取次ヲ以テ自分一名ヘ金五圓借受ケ候心組ニテ作太郎ヘ證書相渡シ該金額同人ヨリ受取前同樣詐偽ノ証書承知ノ上同人所有金ヲ自分貸與ヘ呉レ候事後チシテ相分リ因テ自分ヨリ作太郎ヘ

相渡シ置キタル証書等ハ債主彌八郎ヘモ不相渡作太郎所持罷在ヲ直ニ御取上ケ相成候事

前條ノ通リ金額合テ四拾五圓ハ作太郎ト兩人ニテ詐偽シタルモノニ相違無之候得トモ七拾五圓ノ金額ハ自分ニ於テ詐偽シタルモノニアラス全ク作太郎所有ノ金ヲ借受ケシニ相違無之ニ付合テ財金百貳拾圓ヲ以テ懲役七年御處刑相成候得トモ自分ニ於テ決テ承服スル能ハス因テ這回及上告候條御審理御取調ノ段伏テ奉願候也

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

上告人ノ主點

上告人村田敬長カ請求スル處ハ左ノ如シ

明治十二年九月以來偽証ヲ作リ水守作太郎ヘ托シ黒田鱗平ヨリ金拾圓睦谷彌八郎金五圓小川傳次郎ヨリ金六圓（ニ作太郎ト折半三拾圓借用）借用セ

シ心得ノ處右ハ全ク作太郎カ他借ノ金ヲ鱗平等ヨリ借用ノ体ニテ相渡タル趣ナレハ詐取ニ係ルニ非ス然ルヲ賍金百貳拾圓懲役七年ト處斷アリ且長安清藏等ヲ詐欺セシハ七月ナルニ十一月ト申渡サレシハ不法ノ裁判ナリトノ事

辨明

村田敬長カ黑田鱗平小川傳次郎睦谷彌八郎ヨリ詐取セシト心得居タル金員ハ水守作太郎カ自分所持ノ金員ヲ貸與ヘシ趣ナレハ詐取ニ係ルニ非スト申立ル處作太郎カ明治十三年五月十日神戸裁判所姫路支廳ニ於テ拇印ナシタル口供中ニ明治十二年九月頃自分ノ發意ニテ松野嘉右衛門ノ所有地ヲ書入黑田鱗平方ニテ金貳拾圓ヲ借用スル心積ニテ敬長方ニテ証文ヲ認メ役場ノ印判ハ前顯ノ印ヲ相用ヒ嘉右衛門ノ印蹟ハ敬長ヨリ貰受ケ同村宮崎金吾方ニテ其情ヲ不申

入彫刻致サセ相用ヒ鱗平ヘ持參致シ候得者折節不在ニテ借用スルヿ不相成候付自分所持金拾圓ヲ借用致シタル旨敬長ヘ申入同人ヘ相渡シ該證文破リ申候明治十二年十一月頃自分ノ發意ニテ松野嘉右衛門ノ所有地ヲ書入小川傳次郎方ニテ金六拾圓借用スルヲ敬長ト申合セ同人宅ニテ相認メ役場ノ印鑑ハ敬長ヨリ申上候通梅西方ニテ彫刻サセタル印ヲ相用ヒ証文自分持歸候處自分一人ニテ多數ノ金額ヲ借用スル事ヲ不斗思ヒ付金貳百五拾圓ノ証文ニ認直シ該證文ヲ先方ヘ差入手數料及ヒ先利トシテ金拾圓ヲ引去殘金貳百四拾圓ヲ受取内三拾五圓ヲ敬長ヘ相渡シ殘ハ日ニ飲食等ニ費用仕候事明治十二年十二月二十五日敬長ノ發言ニテ松野嘉右衛門ノ地所ヲ書入レ睦谷彌八郎方ニテ金五圓借用スル心積ニテ僞証書ヲ認メ役場ノ印ハ前件梅西方ニテ彫刻シタル印判戸長ノ印ハ敬長方有合

ノ印ヲ相用ヒ右証文ハ自分受取先方ヘ持參致候得共金調出來サル
旨ニテ相斷候付小川傳次郎方ニテ借受タル内五圓ヲ敬長ヘ相渡候
事ト供述シ其後明治十三年五月十八日拇印ナシタル口供ニ黑田鱗
平方ニテ借用致シタルト申聞ケ敬長ヘ相渡タル金拾圓ハ所持金ト
申上候儀ハ間違ニテ矢張曩ニ欺キ借用シタル金ノ内ニ相違無之事
ト供述ス是ニ由リ之レヲ觀レハ詐取ニ係ルノ金員ニ非ストノ申分
ハ相立ス長安清藏等ヲ詐取セシハ七月ナルニ十一月ト人申渡ハ相
違アリト申立ルモ右ハ罪科ニ差異ヲ生セサレハ畢竟贅言ニ屬スル
者ナリ左スレハ神戸裁判所姫路支廳ニ於テ賍金百貳拾圓懲役十年
首從ノ賍併發スルヲ以テ一等ヲ減シ懲役七年ト申渡シタルハ不法
ノ裁判ニ非ストス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年五月二十四日神戸裁判所姫路支廳ニ
於テ村田敬長ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀
却下スルモノナリ

第四百六十九號

○判文(讒毀ノ件)明治十三年八月七日上告
明治十三年八月廿七日判決

福岡縣筑前國那珂郡春
吉村士族當時福岡日々
新聞仮編輯長
榊　正　虎

明治十三年七月
三十年九ケ月

右正虎ニ明治十三年七月廿九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ左ノ裁判
ヲ言渡シタリ

其方儀明治十三年七月十七日刊行福岡日々新聞第二百八十三號設錄欄内ニ本縣士族津田盛太郎ノ榮譽ヲ害ス可キ行事ヲ摺載シ尚福岡縣警察本署ニ於テ其取紙ヲ受ケ足留中明治十三年七月廿二日刊行第二百八十七号雜報欄内ニ尚ホ醜惡ノ行事ヲ摺載シ右盛太郎ヲ讒毀スル科讒謗律第五條華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スルモノハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下トアルニ依リ罰金四拾五圓申付ル

榊正虎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年八月七日大審院ニ上告ノ旨趣左ノ如シ

第一條

自分讒謗ノ告訴ヲ受ケタル第二百八十三號設錄ノ文タル只津田盛太郎ノ行事ニ付テ一ノ登樓話ヲ同人ノ口演ノ儘一時ノ笑柄ニ供スル爲メニ之ヲ掲載シタルノミ左迄重罪ニ問擬セラルヘキ事項ニ非ス是レ則チ安藤判事カ曲斷セラレタル不法ノ處置ト斷考候事

第二條

右告訴ニ付宣告ヲ受ケタル文中ニ尚ホ福岡縣警察本署ニ於テ其取紙ヲ受ケ足留中トアル尚ホノ字ヲ以テ斷セラレタルハ右ノ告訴ニ付福岡縣警察本署ニ於テ取紙ヲ受ケ其足留中ニ在リナカラ再ヒ同人ノ行事ヲ掲載セルヲ以テ重罪ノ如ク認メラレシモ畢竟足留中トヨフトモ再ヒ右行事ヲ掲載スルヲ禁制スルノ法律無之以上ニ於テハ尚ノ字ヲ加ヘテ之レヲ重罪ト認メラルヘキ者ニ非ス是レ則チ安藤判事カ曲斷セラレタル不當ノ處置ト斷考候事

第三條

前條ニ畧ケタル宣告文ノ續キニ明治十三年七月廿二日刊行第二百

八十七號雜報欄內ニ尙ホ醜惡ノ行事ヲ掲載シトアル尙ホノ字ヲ以テ斷セラレタルハ既ニ一件ノ取紛中ニ在リナカラ再ヒ其事ニ關スルヲ掲載スルハ重罪ノ如ク認メラレシモ二罪俱發ノ罪ノ加重スヘキ者ニアラサルハ既ニ法律ニ明文アルヲ以テ尙ノ字ヲ加ヘテ之ヲ重罪ト認メラルヘキ者ニ非ス是レ則チ安藤判事カ曲斷セラレタル不當ノ處置ト斷考候事

第四條

第二百八十三號設錄同第二百八十七號雜報兩件共被害者津田盛太郎ノ一已ノ私事ニシテ決シテ官吏ノ職務タルニ害ヲ被フラシメタルニ非サルヲ以テ之ヲ以テ重罪ト認ムヘキ者ニ非ラス是レ則チ安藤判事カ曲斷セラレタル不當ノ處決ト斷考候事

大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

辨明

榊正虎ニ於テハ上告狀第一條ヨリ第四條迄ニ掲載セル理由ヲ以テ長崎裁判所福岡支廳ニ於テ宣告セラレタル裁判ヲ不法ナリトシ破毀ヲ求ムルト雖モ正虎カ上告ハ相立サル上告ナリトス如何トナレハ凡法律ニ禁獄何日以上何年以下又ハ罰金何圓以上何百圓以下トアルカ如キハ其犯罪ノ情狀ニ依リ豫メ之カ罰ヲ一定スヘカラサル者アルヲ以テ其範圍ヲ設ケ裁判官ナシテ其範圍內ニ於テ適當ノ處分ヲ爲サシムルモノトス故ニ長崎裁判所福岡支廳カ正虎カ津田盛太郎ノ榮譽ヲ害スヘキ行事ヲ摘發公布シタルヲ以テ讒謗律第五條ニ華士族平民ニ對スルヲ論セス讒毀スルモノハ禁獄七日以上一年半以下罰金五圓以上三百圓以下トアルニ照シ罰金四拾五圓ニ處シタルハ裁判官ニ於テ其權內ニアル範圍ニ就キ正虎カ犯罪ノ情狀ハ

四拾五圓ノ罰金ニ處スルヲ以テ適當ナリト思量セシニ因リ即チ罰金四拾五圓ヲ科シタル者ナルヲ以テ敢テ不法ノ裁判ト謂フヲ得サレハナリ

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年七月廿九日長崎裁判所福岡支廳ニ於テ榊正虎ニ申渡シタル裁判ヲ破毀スヘキ理由ナキニ因リ上告狀却下スル者ナリ

第四百七十號

○判文(車税規則違犯ノ件)明治十三年七月廿一日上告
明治十三年八月廿七日判決

山形縣羽前國南村山郡
小白川村平民
川口周藏

右周藏ニ明治十三年七月十四日福島裁判所山形支廳ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ　明治十三年七月二十六年

其方儀檢印無之壹人乘人力車ヲ以テ營業致ス科車税規則第六則ニ依リ脫税高壹圓ノ五倍科料金五圓中付ル

山形縣五等警部矢部潔ハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年七月廿一日大審院ニ上告スル爲メ司法省ニ差出シタル末大審院檢事ヨリ明治十三年八月二十日本院ニ送付シタル上告狀ノ旨趣左ノ如シ

右裁判ノ破毀ヲ求ムル所以ハ車税規則第一則ニ人力車壹人乘壹ケ年税金壹圓トアリ同第三則ニ新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税候儀ト可相心得事トアリ然カシテ同第六則ニ諸車税無届ニ

テ營業スル歟又ハ使用スル者ハ其脫稅高ノ五倍科料タルヘキ事トアリ是レニ由テ斯ヲ觀レハ該犯半ケ年分ノ稅金五拾錢ヲ納ムヘキモノニ付此脫稅高ノ五倍則貳圓五拾錢ヲ科スヘキモノナリ然ルヲ今山形支廳ニ於テ全壹个年分ノ稅金壹圓ノ五倍ヲ科シタルハ不法ノ裁判ト思考セリ

大審院ニ於テ辨明スル左ノ如シ

川口周藏カ明治十三年七月十日捺印シタル始末書ニ〔明治十三年七月六日南村山郡山形旅籠町人力車職安達重松方ヨリ一人乘ノ人力車壹輛買受ケ候間直ニ其旨届出御檢印ヲ申受ケ營業可致ノ處慾心ノ餘リ其許可ヲ經ス明治十三年七月八日住所氏名不存往來ノ客人ニ被雇山形旅籠町ヨリ東村山郡天童村迄代金拾八錢ニ受負該所ヘ挽越タル際云々トアルニ依レハ周藏カ明治十三年七月六日一人乘

ノ人力車ヲ買受ケ無届ニテ擅ニ營業セシヲ以テ車稅規則ニ違犯セシ所爲ハ明瞭ナリトス左スレハ山形縣警部矢部潔カ上告セシ理由ナルヲ以テ車稅規則第六則ニ依リ脫稅セシ半ケ年分ノ稅金五拾錢ノ五倍即チ貳圓五拾錢ニ處ス可キ者トス然ルヲ福島裁判所山形支廳ニ於テ壹ケ年分ノ稅金壹圓ノ五倍即チ五圓ニ處シタルハ不法ノ裁判ナリトス

判決

右ノ理由ナルヲ以テ明治十三年七月十四日福島裁判所山形支廳ニ於テ川口周藏ニ申渡シタル裁判ヲ平翻スル左ノ如シ

川田周藏

右ハ前ニ辨明スル如クナルニ因リ車稅規則第六則ニ照シ脫稅高金五拾錢ノ五倍ヲ科シ

科料金貳圓五拾錢

第四百七十一号

○判文(強盜瞭望ノ件)明治十三年三月三日上告
明治十三年八月廿八日判決

大阪府攝津國西成郡入
江町拾六番地平民池田
彌九郎養子
池田梅次郎
明治十三年一月
二十五年十ケ月

右梅次郎カ明治十三年一月十七日大阪府警察署ニ於テ吟味ヲ受ケシ口供左ノ如シ

自分儀貧ニ迫リ盜心生シ曩ニ就捕セラル大阪府下西成郡野上町平民堀兼吉明治十三年一月七日就捕難波村平民大西柾二郎和歌山縣下紀伊國海

部郡湊桶屋町平民人力車夫田中光之助明治十二年三月四日就捕堺縣下和泉國大鳥郡船松町平民泉谷長藏明治十二年三月六日就捕居所不知淺吉紀州生大阪府下西成郡穗浪町平民原田爲吉堺縣ニ於テ入獄中明治十二年十月中旬頃病死ス等之内兼吉ノ發意ニテ長藏柾二郎光之助淺吉等盜業可働旨結約致アル趣ニテ右兼吉ヨリ爲吉ヘ同徒ニ加ル可ク樣申勸メタル由ニテ爲吉ヨリ自分ヘ右從ニ加リ大仕事ナサント言フニ同意シ明治十二年三月三日黄昏頃兼吉淺吉長藏光之助柾二郎ハ自分等ヨリ一歩先ヘ出テ南區大黑橋上ニ於テ出會フ可ク樣約シ置キ自分爲吉ハ少々後レテ大黑橋ニ到タル處右五人ハ橋ノ中央ニ待受居其際爲吉ノ言フニ兼吉ハ自分ト同處住ニテ兼テ知人ニ有之故顏ヲ差合ヒ嫌フ樣子ニテ兼吉ト唱サル樣依賴シアル趣爲吉ヨリ承知シ夫ヨリ右七人同伴ニテ大黑橋ヲ北ニ打越シ泌齋橋筋大丸呉服屋手前ニ到ル時淺吉曰ク自分

爲吉ハ兇器ヲ懷中セシヤト尋ヌルニ自分等ハ素ヨリ窃盗ノ存意ナル故所持不致ト答ヘタル處彼亦曰ク該家强盗働可ク自分等ノ兇器ハ心齋橋筋露店ニ於テ買求メ遣ス可シト言哉否爲吉ハ其場ヲ避ケ行衛不知自分モ退ントセシヲ淺吉ニ引留ラレ一旦結約セシヲ何故退クカト謂レタルヨリ最早行盗ノ途ニ在テ避ケ難ク右五人ニ同シ處々徘徊中該夜則明治十二年三月三日午後七時頃南區松屋町米商其節名前不知小上馬音吉方家外ニ自分光之助ハ瞭望シ其他ノ者ハ表口ヨリ各拔刀ヲ携ヘ家内ヘ押入ル處家内ノ者ハ高聲ヲ發シ騷タルヨリ右四人ハ財ヲ得スシテ立出來リ該家離ル、四五軒東ニ於テ長藏曰ク右方ヘ押入タル處家内之者ハ裏口ヘ逃ケ去リ意ノ如クナラス殘念ノ余リ娘一人ヲ切倒シ來リ此上ハ一統遁レ難シ早ク逃走ス可シト言ヒ長藏ハ所持之血刀ヲ拭ヒ取リ懷中セシニ付自分ハ共

犯タルヿ藏匿致吳候樣深ク長藏ヘ賴ミ置其場立別レ歸宅罷在候處忽チ惡事顯レ柾二郎光之助長藏ハ追々被召捕自分モ一時ハ潛伏致居候得共其後數月經過スルモ御手當無之ヨリ定テ長藏等ハ自分ヲ包藏致吳候者ト存シ當今ニ至リ歸宅致シ居ル處遂ニ明治十三年一月十二日午前九時十分頃自宅ニ於テ巡査衆ニ被召捕候事

追問

其方盗行ノ際共犯兼吉ト言語ヲ交ヘ顏ヲ確ト見認置タル哉

答

自分ハ兼吉等ト一歩後レ大黑橋ニ於テ出會タル時ハ彼等面躰ヲ包ミ殊ニ夜間ノヿナレハ互ニ顏ヲ合シ或ハ言語ヲ交ヘタルニ非サレ共常ニ同人ノ姿ヲ能ク承知シアリ故ニ面ヲ見受ケストモ風躰ハ兼吉ニ相違無之樣見認候

問　其時兼吉ノ衣類風躰等如何アリシ哉

答　兼吉上着ハ紺ノ單物ニ茶色ノ三尺帶ヲ〆黑ノ頭巾ヲ冠リ黑色ノパッチヲ鑿ヲ雪踏ヲ履キ尻揭ゲシタリ

問　淺吉ヨリ其方爲吉兩人ハ兇器ヲ忍齋橋筋露店ニ於テ買求渡スヘク ト申聞ケシ際爲吉ハ逃走セシト申立テシガ其方ハ跡ヨリ買求メ受取リシ哉

答　露店ニ刀劍類無之ニ付遂ニ不買求候

前書高麗橋警察署及ヒ本署ニ於テ供述候通相違無之事

右ノ口供ニ依リ明治十三年二月二十八日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十二年三月三日堀兼吉ナル者ノ覆意ニ泉谷長藏大西柾次郎田中光之助苗字不知淺吉原田爲吉共ニ之ニ應シ南區松屋町米商小上馬吉吉方ヘ兇器ヲ携ヘ押入リ財ヲ得スシテ逃走スル際未タ同犯ト共ニ室ニ入ラス外ニ在リテ瞭望セシ科改定律例第百二十八條ニ依リ從役ノ本罪懲犯十年ヨリ一等ヲ減シ懲役七年申付ル

但共犯ノ内人ヲ殺ス者アリシト雖モ自カラ之ニ關カラサルヲ以テ本罪ヲ科ス

池田梅次郎ニ於テハ右ノ裁判ヲ不法ナリトシ明治十三年三月三日大審院ニ差出シタル上告狀及上告追願書左ノ如シ

私儀明治十三年第二月廿八日大阪裁判所ニ於テ改定律例第百廿八

條ニ依リ懲役七年御申渡ニ相成候得共不服ニ付上告ノ趣意左ニ奉
申上候

私儀明治十三年第一月十二日當府北久寶寺町警察御署ヨリ御尋問
ノ筋有之旨ニテ御拘引相成和泉國泉谷長藏ナル者ト申合府下松屋
町末吉橋東詰米屋方ヘ昨十二年第三月三日夜強盜ニ押入候由被仰
聞驚入其旨不存御答申上候
尤私儀ハ其比二月上旬ヨリ叔父葛本又吉ナル者肺病ニ相係リ既ニ
危命ニ抱リ候テ同三月二日ノ夜ヨリ晝夜看病致罷在候故前顯御尋
問ノ筋更ニ不存申答候處其方義通名小紋ノ兼吉ヨリ右條申立有之
上ハ必ス泉谷長藏ト同意致候義相違無之段强テ御申聞ニ相成其際
私ヲ擲殺シ候トモ不苦ル族ト憤聲ニ被申實ニ怖敷存シ此場ニ於テ
相果テ候モ殘念ト存シ後日御裁判所ニ於テ判然申立候得ハ可相通

ルト無據仰ニ隨ヒ拇印仕候
然ル處同十三日高麗橋警察署ヱ御廻シ相成同十九日警察本署ヘ御
廻シノ上尚又廿日御裁判所ヘ御引渡ノ上御尋問ノ際右長藏ト申者
素ヨリ不知旨申答ヘ候處御拘留相成候長藏ト私ト突合セノ上御調
相成候得共長藏ナル者申立候ニハ此梅次郎ト同意致候覺ヘ無之且
知人ニテモ無之段申立私ニ於テモ不存段申上候義ニ御座候
前條ノ通相違不奉申上素ヨリ右長藏ト同意致候覺ヘ更ニ無之猶又
小紋ノ兼吉ナル者ヲ御尋問中無謂放免相成且同人ヨリ發言ニヨリ
私シ一人ヘ相係リ改定律例百二十八條ニ依リ懲役七年御申渡相成
候義ハ不服ニ付上告申上候何卒御憐察ヲ以此段御糾シ被成下度奉
願上候也

上告追願書

私儀明治十三年第三月三日刑事上告趣意明細書ヲ以奉願上候通去ル明治十二年第三月三日ノ夜松屋町末吉橋東詰米屋方ヘ泉谷長藏ト申合シ强盜ニ押入候旨屢々御糺問ニ相成其段不存右長藏ニ於テモ不存旨申答ヘ私ニ於テモ素ヨリ不知旨奉申上候處猶又其砌小紋ノ兼吉ナル者御調ヘ有之候得共是又私シ二人トモ其儀不知旨判然致其場ニ於テ二人トモ拇印仕候然ルニ小紋ノ兼吉壹人放免相成私而已懲役七年御申渡相成其際宣告書御讀渡ニ兼吉ノ發意ニ寄リト被仰候義ハ一圓不得其意ヲ猶又前書泉谷長藏ナル者于今御所置ニ無之私シ壹人ニ限リ懲役七年御申渡シ相成候段存外難得況ヤ去ル明治十二年第三月三日ノ夜强盜二組有之押入候哉旁々不審ニ付御探索被成下度恐縮ノ至リニ奉存候得共此段奉追願候也

大審院ニ於テ裁判スル事左ノ如シ

上告ノ主点

上告人池田梅次郎ノ請求スル所左ノ如シ

明治十二年三月三日頃ハ叔父大患ニ罹リ晝夜看護中ナルヲ以テ賊盜ヲナスヘキ理ナシ然ルヲ鞫問ノ苛刻ニ畏怖シ枉テ伏罪セシヲ懲役七年ニ處セラレ且兼吉ノ發意ニ依リト申渡サレシハ不服ナリトノ事

辨明

池田梅次郎カ明治十二年三月三日頃ハ叔父大患ニ罹リ晝夜看護中ナルヲ以テ賊盜ヲナスヘキ理ナシ然ルヲ鞫問ノ苛刻ニ畏怖シ枉テ供狀セシヲ懲役七年ニ處セラレ且兼吉ノ發意ニ依リト申渡サレシハ不服ナリト申立レモ檢察官吏等鞫問上決テ苛刻ノ擧アルヘキノ理ナク又本人ノ供セサル罪跡ヲ記載スヘキ筈ナキハ論ヲ�(«)タス果

テ一時强テ不實ノ供狀ヲ承認セハ宜シク大阪府警察本署若クハ檢事局ニ於テ其寃ヲ陳供スヘキニ當ニ之ヲ供セサル而已ナラス前顯警察本署ヨリ檢事局ニ於テモ尙前供ノ通聊相違無之ト陳供押印シ又大阪裁判所於ケルモ依然前供ノ通リナル旨申立一点ノ異辭ナク押印スル上ハ該口供ハ眞實ノ白狀タルヿ明瞭ナリトス其兼吉ノ發意タルヿハ前顯眞實ノ口供ニ據リ處分セシ者ニテ必シモ辨明ヲ俟タス又叔父ノ看護中ナリトノ申立ハ無証ノ陳述ナルヲ以テ前供ヲ反覆スルノ力ナキモノトス仍テ大阪裁判所ニ於テ改定律例第百二十八條ニ依リ從犯ノ本罪懲役十年ヨリ一等ヲ減シ懲役七年ト申渡タルハ適當ノ裁判ナリトス

判決

右ノ如クナルヲ以テ明治十三年二月二十八日大坂裁判所ニ於テ池田楳次郎ニ申渡シタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナキニ依リ上告狀却下スル者ナリ

第四百七十二號

○判文(窃盜三犯ノ件)明治十三年五月三十一日上告
明治十三年八月二十八日判決

大阪府下東區內本町橋詰町二十七番地平民

小西芳三郎

明治十三年五月
十九年三ヶ月

右芳三郎カ明治十三年五月二十二日大阪裁判所ニ於テ審問ヲ受ケシ口供左ノ如シ

自分義大阪府警察署ニ於テ申立候通前科ノ義ハ相違無御座候ヘ共今般他人ノ懷中ヘ手ヲ入レタルハ突當リタルハツミニテ掏摸ヲス

ル存意ニ無之候事

明治十三年五月十三日大阪府菅原警察署ニ於テ吟味ヲ受ケタル口供左ノ如シ

明治十一年六月廿九日京都府伏見區裁判所ニ於テ掏摸金八拾貳錢八厘ノ科窃盗律ニ依リ懲役五十日申付ラル

同十二年九月廿五日大阪府裁判所ニ於テ掏摸スル賍金三拾四圓ノ科窃盗ニ依リ杖九十再犯ニ係ルヲ以テ一等ヲ加ヘ杖一百申付ラル

一自分儀明治十三年五月十二日府下北區曾根崎新地芝屋見物ニ罷越歸路途中堂島裏大丸軒下通行ノ際俄ノ暴雨故急ニ雨凌ニ立寄候處曩ニ其節姓名不存滋賀縣士族淺島誠護ト申者矢張雨凌ニ佇立居候ニ突當リ然ルニ同人ノ懷中物ヲ取出サントスル者ト被咎候故色

々申譯ケ致シ候得共終ニ同人ニ召連ラレ曾根崎分署ヘ被訴候上前顯御取調ヲ蒙リ候事

問　汝現ニ淺島誠護ノ胸間ニ手差入煙艸入ヲ掏摸セントスルヲ取押エラレシニ相違ナキヤ

答　突當ル際過テ手カ胸間ニサアリシナリ

問　汝突當リシトハ口實ナリ如何トナレハ暴雨ヲ凌ク爲メ佇立スル者カ何故突當ルノ理由アルソ

答　前供述ノ通リ俄ニ立寄リシヨリ不斗突當リシ次第ナリ

明治十三年五月廿八日大阪裁判所ニ於テ左ノ裁判ヲ申渡シタリ

其方儀明治十三年五月十二日大阪府北區堂島裏人家軒下ニ於テ滋賀縣士族淺島誠護ノ懷中ヘ手ヲ入レタルハ突當リタルユヘナル旨辨護スト雖モ仮令突當タルニモセヨ故ヲニ他人ノ懷中ヘ手ヲ入ル